

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

平成 31 年 4 月

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	教養演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上博文・学科教員
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : 授業後教室にて担当教員が受け付ける							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>近い将来、社会人・保育者となる学生に求められる基礎的知識の獲得及び汎用的能力の育成を目指し、具体的には以下の4点を目標とする。</p> <p>① 高等教育(本学の教育)について理解する。</p> <p>② 大学生として必要な学習方法、学習姿勢を修得する。</p> <p>③ 望ましい学生生活の在り方を理解する。</p> <p>④ 有用な社会人・保育者として求められる「社会・対人関係力」「論理的思考力・表現力」を修得する。</p> <p>学生の学習成果 :</p> <p>基礎的・汎用的学習成果として、教育目標に掲げる4点に関する知識・態度、能力を修得する。</p>						
	教育方法	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に学科の専任教員が担当し、一部を学長・岡山学院大学教員が担当する。 第2回が高等教育に関する認識を深めさせる授業、第3・4回が学習方法、学習姿勢を育成する授業、第5～7・11回が望ましい学生生活の在り方を理解させる授業、第8～10・12回が社会・対人関係力を育成する授業、第13～15回が論理的思考力・表現力を育成する授業である。 授業は、教員による講義とそれに基づく演習を組み合わせる。 受講生は、毎回の学習成果をチャトルカードに記述し提出する。 					
学習評価の方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> 授業回数別教育内容に記載した予習・復習を求める。 					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 使用しない。 適宜持参するものを指示する。あるいは資料を配付する。 					
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回担当教員が、教育目標に掲げる4点の学習成果について受講状況・チャトルカードの記述等により受講生を個別に100点満点で評価する。その平均値を成績とする。 全授業を通して、社会人・保育者として身に付けるべき態度(社会人としてのマナー・学習態度など)及び信念(保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など)の評価を行い、担当教員の指導に従わず改善が見られない場合、評価点より減ずる(1件2点)。 						
注意事項	参考図書等						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションにより、シラバスに記載された内容を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料（シラバス・授業予定）を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学学生として有益な学生生活を送るために、また有用な社会人となるために身に付けるべきことを認識する。 <p>予習：シラバスを通読する。 復習：授業内容を振り返り、シラバスを確認する。</p>
2 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神「教育三綱領」、幼児教育学科の教育目標、本学科の保育者養成の教育目標、学生の学習成果、学位授与、教育課程編成・実施について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学生のしおり」を用いて、講義する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育（本学の教育）について認識する。 <p>予習：「学生のしおり」の該当箇所を通読する。 復習：授業内容を振り返り、高等教育について認識を深める。</p> <p style="text-align: right;">【高等教育に関する認識の深化】</p>
3 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学の授業は？」「授業タイプ別のノートの取り方」「ノートの取り方対策」の3点について理解する。（前半） <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料（前半）を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の3点（前半）について要点を説明できる。 <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、各授業でのノートの取り方を考える。</p> <p style="text-align: right;">【学習方法、学習姿勢の育成】</p>
4 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大学の授業は？」「授業タイプ別のノートの取り方」「ノートの取り方対策」の3点について理解する。（後半） <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料（後半）を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の3点（後半）について要点を説明できる。 <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、各授業でのノートの取り方を考える。</p> <p style="text-align: right;">【学習方法、学習姿勢の育成】</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>5 回</p>	<p>○本時の目標 ・「望ましい学生生活の在り方（食生活と健康）」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配付資料を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・望ましい食生活について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、望ましい食生活について考える。</p> <p style="text-align: right;">【望ましい学生生活の在り方に関する理解】</p>
<p>6 回</p>	<p>○本時の目標 ・「望ましい学生生活の在り方（心の健康）」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配付資料を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・望ましい心の健康について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、望ましい心の健康について考える。</p> <p style="text-align: right;">【望ましい学生生活の在り方に関する理解】</p>
<p>7 回</p>	<p>○本時の目標 ・「望ましい学生生活の在り方（人間関係）」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配付資料を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・望ましい人間関係について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、望ましい人間関係について考える。</p> <p style="text-align: right;">【望ましい学生生活の在り方に関する理解】</p>
<p>8 回</p>	<p>○本時の目標 ・「望ましい学生生活の在り方（学生の社会モラル）」について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配付資料を解説する。 ・講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・望ましい社会モラルについて要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、社会モラルについて考える。</p> <p style="text-align: right;">【望ましい学生生活の在り方に関する理解】</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>9 回</p>	<p>○本時の目標 ・ 日常の敬語・マナーの実態及び今後注意すべき点について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・ 配付資料を解説する。 ・ 講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・ 敬語・マナーの実態及び今後注意すべき点について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、自分自身の敬語・マナーの実態及び今後注意すべき点について考える。 【社会・対人関係力の育成】</p>
<p>10 回</p>	<p>○本時の目標 ・ 敬語・マナーに関する知識と作法を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・ 配付資料を解説する。 ・ 講義による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・ 敬語・マナーに関する知識と作法について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、自分自身が特に身に付けるべき敬語・マナーに関する知識と作法について考える。 【社会・対人関係力の育成】</p>
<p>11 回</p>	<p>○本時の目標 ・ 敬語・マナーについての知識と作法を定着させる。</p> <p>○本時の活動 ・ 敬語・マナーの実践場面を想定したロールプレイを行う。 ・ ロールプレイによる学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・ 敬語・マナーに関する知識と作法について要点を説明できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、自分自身が実践すべき敬語・マナーについて考える。 【社会・対人関係力の育成】</p>
<p>12 回</p>	<p>○本時の目標 ・ 心肺蘇生法・AED等の基礎的な知識と技能を修得する</p> <p>○本時の活動 ・ 救命救急法講習を受講する。 ・ 講習による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・ 心肺蘇生法・AED等の基礎的な知識を説明できるとともに実践できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、心肺蘇生法・AED等の基礎的な知識と技能を確認する。 【社会・対人関係力の育成】</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>13 回</p>	<p>○本時の目標 ・小論文の書き方について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・500字程度の小論文の書き方について説明する。 ・500字程度の小論文を作成する。 ・講義と演習による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・500字程度の小論文が作成できる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、小論文の書き方を確認する。</p> <p style="text-align: right;">【論理的思考力・表現力の育成】</p>
<p>14 回</p>	<p>○本時の目標 ・小論文の書き方について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・800字程度の小論文の書き方について説明する。 ・小論文の要旨・構成等について検討し、下書きをする。(小論文作成の前半) ・講義と演習による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・要旨・構成等について検討し、下書きができる。</p> <p>予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、小論文の要旨・構成、下書きが適切かを考える。</p> <p style="text-align: right;">【論理的思考力・表現力の育成】</p>
<p>15 回</p>	<p>○本時の目標 ・800字程度の小論文を完成させる。</p> <p>○本時の活動 ・前回下書きをした小論文を手直しし、清書する。(小論文作成の後半) ・演習による学習成果等についてシャトルカードに記述する。</p> <p>○本時の学習成果 ・下書きした小論文を手直しし、清書することできる。</p> <p>予習：前回の授業内容を振り返り、手直しする点を考える。 復習：作成した小論文について自己評価をする。</p> <p style="text-align: right;">【論理的思考力・表現力の育成】</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	教育心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac. OH 金曜日 9 : 10~17 : 00							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 :</p> <p>幼児や児童、生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学的な基礎知識を身に付け、多様な発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解するとともに、対象者をよく理解し、効果的な教育的対応及び保育実践のできる保育者の育成を目指し、以下の点に関する基礎的知識や考え方の理解及び定着を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの生活や遊びを通じた学習の過程等を始めとする、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項 2 子どもの心身の発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践 3 保護者への育児支援まで含めた保育における発達援助 <p>学生の学習成果 :</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる 3 項目に関する基礎的知識や能力を獲得する。また、汎用的学習効果として保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育心理学の知識として不可欠なものについては講義形式で行う。 ・ 専門的な知識の獲得及び能力向上への準備性を高めるため、必要に応じてバズ・セッション(テーマについての自由討議)等を行う。 ・ 授業の理解度確認の小テスト及びビデオ視聴後の課題レポートを複数回実施する。その際又は独立してアンケートを実施し、授業への質問や要望を求め、参考になるものは授業で取り上げる。 	<p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・ 毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 	<p>テキスト</p> <p>教育心理学—保育者をめざす人へ— 石井正子・松尾直博編著 樹村房</p>			
学習評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の 4 つの学習成果について、獲得度合を量的に評価する。 ①学習過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項を理解する。 ②発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践について理解する。 ③保護者への育児支援まで含めた発達援助の能力を養う。 ④保育に必要な教育心理学の用語を使用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習評価は、討議への参加態度、課題レポート(30点)及び期末試験(70点)を加算し実施する。 ・ 汎用的学習評価については、学習態度(私語)遅刻などを考慮する。 						
注意事項	<p>参考図書等</p> <p>よくわかる教育心理学 中澤 潤編 ミネルヴァ書房 2011</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本時の目標 教育心理学についての学びと保育の関連性を理解する。 授業の進め方、スケジュール、成績評価の方法、シラバスの説明 内容 第1章 保育と教育心理学 1、保育者の役割と教育心理学 2、乳幼児期の学習と教育 復習：シラバスの確認・テキスト(pp.2-9)</p>
2 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程① 本時の目標 幼児や児童の心身の発達を理解する。 内容 第1章 保育と教育心理学 1、様々な児童観と教育観 2、幼稚園や保育所における保育 予習：テキスト(pp.10-22) 復習：テキスト(pp.10-22)</p>
3 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程② 本時の目標 幼児や児童の発達・及び学習の過程について基礎的な知識を身に付ける。 内容 第2章 発達と教育 1、発達を規定するもの 2、発達段階と発達課題 予習：テキスト(pp.23-35) 復習：テキスト(pp.23-35)</p>
4 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程③ 本時の目標 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性について理解する。 内容 第2章 発達と教育 1、思考の発達と教育 2、ことばの発達と教育 予習：テキスト(pp.36-48) 復習：テキスト(pp.36-48)</p>
5 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程① 本時の目標 様々な学習の形態や概念及びその過程の根拠となっている心理学における代表的理論の基礎を理解する。 内容 第3章 学習のしくみ 1、乳幼児と学習 2、さまざまな学習 予習：テキスト(pp.49-60) 復習：テキスト(pp.49-60)</p>
6 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程② 本時の目標 教育心理学の基礎的な考え方や用語を理解する。 内容 第3章 学習のしくみ 1、記憶 2、学習が成立する環境 3 保育に必要な教育心理学の用語（レポート） 予習：テキスト(pp.61-70) 復習：テキスト(pp.61-70)</p>
7 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程③ 本時の目標 様々な学習の形態や概念及びその過程の根拠となっている心理学における代表的理論の基礎を具体的事例などから理解する。 内容 第4章 やる気を育てる 1、やる気とは 2、いろいろなやる気—やる気の捉え方 予習：テキスト(pp.71-79) 復習：テキスト(pp.71-79)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

8 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程④</p> <p>本時の目標 幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p> <p>内容 第4章 やる気を育てる</p> <p>1、内からのやる気の発達 2、内からのやる気をうばってしまう世界 3、内からのやる気を育てる</p> <p>予習：テキスト(pp.80-94) 復習：テキスト(pp.80-94)</p>
9 回	<p>2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程⑤</p> <p>本時の目標 幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導における個人の発達をふまえた指導について理解する。</p> <p>内容 第5章 個人差の理解</p> <p>1、個人差と個性 2、知能とはなにか 3、乳幼児の発達に関するテスト（遠城寺式幼児分析的発達検査法） <u>※保育相談実践室で演習を行う。</u></p> <p>予習：テキスト(pp.95-102)復習：テキスト(pp.95-102)</p>
10 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程⑥</p> <p>本時の目標 教育現場における幼児の個人差を理解し、発達を踏まえた学習の支援の在り方について理解する。</p> <p>内容 第5章 個人差の理解</p> <p>1、性格とは何か 2、子どものあり方の理解と適応 3、保育に必要な教育心理学の用語（レポート）</p> <p>予習：テキスト(pp.103-114) 復習：テキスト(pp.103-114)</p>
11 回	<p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程⑦</p> <p>本時の目標 幼児にとっての主体的な学習を支える集団作りと人間関係について理解する。</p> <p>内容 第6章 人間関係と社会化</p> <p>1、人間関係の中で育つもの—人間関係の芽生え— 2、人間関係の広がりと環境 3、遊びと人間関係 4、道徳性と向社会的行動の発達</p> <p>予習：テキスト(pp.115-138) 復習：テキスト(pp.115-138)</p>
12 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程④</p> <p>本時の目標 幼児の主体的な学習を支える学習評価の在り方や知能検査などについて理解する。</p> <p>内容 第7章 特別な支援を要する子どもたち</p> <p>1、特別な支援を要する子どもたち 2、障害の理解と受容 3、個別式知能検査（WISCIV知能検査） <u>※保育相談実践室で演習を行う。</u></p> <p>予習：テキスト(pp.139-149) 復習：テキスト(pp.139-149)</p>
13 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程⑤</p> <p>本時の目標 幼児の発達や特別な支援の必要な指導について理解する。</p> <p>内容 第7章 特別な支援を要する子どもたち</p> <p>1、さまざまなこころの問題 2、保育の中での支援 特別な支援を要する子どもたちに関連したビデオの視聴</p> <p>予習：テキスト(pp.150-160) 復習：テキスト(pp.150-160)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

14 回	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程⑥</p> <p>本時の目標 幼児や児童の主体的な学習を支える動機づけを発達の特徴と関連付けて理解する。</p> <p>内容 第8章 親の理解と子育て支援 1、現代社会と子育て支援 2、現代の親子関係</p> <p>予習：テキスト(pp.161-171) 復習：テキスト(pp.161-171)</p>
15 回	<p>幼児、児童、及び生徒の心身の発達及び学習の過程の総復習</p> <p>本時の目標 各発達段階における心理的特徴を重点的に理解する。</p> <p>内容 第8章 親の理解と子育て支援 1、保育者に求められる役割 2、保育者のストレスとストレスマネジメント</p> <p><総復習> 内容 全授業内容の復習</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	特別支援の方法と理解	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木 久子 大賀 恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail: ohga@owc.ac.jp						OH:水曜 2 限	
教育目標と学生の学習成果	<u>教育目標</u> 本科目の目的は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」である。本科目では、通常学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することである。						
	<u>学生の学習成果</u> 専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に関する内容を理解し、対応能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) 講義形式によって行い、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。 授業時間外にもレポート課題を課す。					
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。					
	テキスト	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子 [編] 改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016 年					
学習評価の方法	<u>評価配分に関して</u> 以下の 3 つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。						
	<u>評価ツールに関して</u> ・専門的学習成果：評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分 20 点は課題で測る。授業内容に応じた論述課題を含む。						
注意事項	参考図書 授業中に紹介する。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション・特別支援教育の歴史></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。
2 回	<p><特別支援教育の理念と制度①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第1章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第1章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。
3 回	<p><特別支援教育の理念と制度②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第2章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。 ・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。
4 回	<p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性和法的整備について理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・支援システムの構築の必要性和法的整備について説明することができる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：テキスト第3章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第4章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第4章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。
6 回	<p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第5章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第5章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。
7 回	<p><特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。 2. 本時の活動 ・テキスト第6,7章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第6,7章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。
8 回	<p><特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第8,9章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第8,9章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。
10 回	<p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。
11 回	<p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 13 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。
12 回	<p><特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 14 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><早期発見、早期支援と連携></p> <p>1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・テキスト第 15 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。</p>
14 回	<p><進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解></p> <p>1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。</p> <p>2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 16 章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第 1 回から第 13 回の授業内容を確認する。</p>
15 回	<p><まとめ></p> <p>1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。</p> <p>2. 本時の活動 次の 3 点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	発達心理学 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深めることを目標とする。</p> <p>①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に乳幼児期の発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達に関する基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、発達課題について理解する。 ④子どもの発達・成長に重要な遊びに関する様々な研究知見を習得する。 ⑤自主的に学ぶ姿勢を身につける</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③・④の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる⑤の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> 主として教科書とノートに基づく講義形式によって行う。 授業内容に応じて、補足プリントを配布する。 授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。 <p>予習・復習</p> <p>予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。</p> <p>テキスト</p> <p>成田 朋子・大野木 裕明・小平 英志編著 『保育実践を支える保育の心理学 I』福村出版、2011 年。</p>					
学習評価の方法	<p>専門的学習成果</p> <p>評価配分は 90 点であり、期末試験 (80 点) と論述課題 (10 点) で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「① : ② : ③ = 30 点 : 30 点 : 30 点」の比重をおく。</p> <p>①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に子どもの発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。</p> <p>汎用的学習成果</p> <p>評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p> <p>以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p>						
注意事項	<p>参考図書</p> <p>新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版、1997 年。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を説明する。</p> <p><保育と心理学①> ・授業内容：心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児の発達と心理学とのかかわりについて概説する。 ・学習成果：人間理解の1つの方法である「心理学」をおおまかに理解する。 ・予習事項：テキスト1章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。</p>
2 回	<p><保育と心理学②> ・授業内容：前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示す。 ・学習成果：心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 ・予習事項：テキスト2,3章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
3 回	<p><練習課題①> ・2回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達①-人間の発達とその要因-> ・授業内容：発達に影響する遺伝や環境の要因、それらの相互作用についての諸説を示す。 ・学習成果：人間の発達に影響する要因を理解し、しなやかな心と体の発達に「健康」「環境」「人間関係」「言葉」「表現」が必要であることを確認する。 ・予習事項：テキスト4章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
4 回	<p><練習課題②> ・3回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達②-情動と自我・自己の発達-> ・授業内容：乳幼児期の情動の発達に関して、ルイス（Lewis, M.）の理論などを紹介する。また、乳幼児期の自我・自己の発達過程を説明する。 ・学習成果：乳幼児期の情動と自我・自己の発達過程を理解する。 ・予習事項：テキスト5章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>
5 回	<p><練習課題③> ・4回目の授業内容に関する課題を仕上げる。</p> <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達③-身体機能と運動機能の発達-> ・授業内容：乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を紹介する ・学習成果：乳幼児期における身体および運動面の発達過程や特徴を理解する。 ・予習事項：テキスト6章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><練習課題④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達④-知覚と認知の発達-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児期の知覚に関して、乳幼児を対象とした知覚についての研究知見を紹介する。また、乳幼児期の認知に関して、ピアジェ (Piaget, J.) の理論を紹介し、乳幼児期の認知発達を説明する。 ・ 学習成果：乳幼児期の視覚、聴覚、味覚など各知覚の特徴を理解する。また、乳幼児の認知の特徴を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 7 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
7 回	<p><練習課題⑤></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑤-言語の発達-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：まず、言語の機能 (役割) について概説した後、乳幼児期における言語能力の発達過程を説明する。 ・ 学習成果：乳幼児期の言語能力の発達過程を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 8 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
8 回	<p><練習課題⑥></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑥-人とのかかわり-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボウルビィ (Bowlby, J.) の理論などを紹介する。 ・ 学習成果：乳幼児と養育者の相互作用とその意義を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 9 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
9 回	<p><練習課題⑦></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑦-人とのかかわり-></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：前回に引き続き、乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボウルビィの理論、愛着について内容を確認する。 ・ 学習成果：乳幼児と養育者の相互作用とその意義を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 10 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
10 ・ 11 回	<p><練習課題⑧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：生涯発達に関して、「保育所保育指針」に示されている乳幼児期の発達の特徴を紹介する。その際、4～9 回目の授業内容も振り返り、乳幼児期の発達の特徴の全体像を示す。 ・ 学習成果：乳幼児期の発達の特徴の全体像を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 11 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
12 回	<p><練習課題⑨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10, 11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：生涯発達に関して、エリクソン (Erikson, E. H.) の理論を紹介し、児童期以降の発達の特徴を説明する。 ・ 学習成果：児童期および青年期以降の発達の特徴を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 12、13 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
13 回	<p><練習課題⑩></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 <p><生涯発達と保育の重要性④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関する理解を促進する。発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方を説明する。 ・ 学習成果：発達の“つまずき”の種類、発見と評価、支援のあり方を理解する。 ・ 予習事項：テキスト 14 章を熟読する。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
14 回	<p><子どもと遊び①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を説明し、遊びが及ぼす子どもの発達に対する影響と意義を示す。 ・ 学習成果：子どもの発達に対する遊びの意義を認識する。 ・ 予習事項：子どもの頃の経験を振り返り、健康で安全な生活をつくりだす力を養うための効果的な遊びを考えてくる。 ・ 復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
15 回	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容：心理学の観点から子どもの発達を理解するために習得した基礎知識、子どもが体験を積み重ね相互に関係をもちながら成長する過程を理解し、全講義の内容をまとめる。 ・ 学習成果：心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深め、保育の重要性を確認する。 ・ 予習事項：特になし

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	臨床心理学 (A)	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp OH:水曜日 2 限 M409 室							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育・教育者にとって関心の高い発達障害を中心に,その理解と援助法をについて,基本的なあり方を理解する。すなわち,以下の諸点に関する基礎的知識を習得することである。 ① 発達障害の類型とそれぞれの特徴を理解する。 ② 発達障害の援助に関する基礎的知識を習得する。 ③ カウンセリングの技法の基礎的知識を理解する。 ④ 社会人として求められる態度・信念を獲得する。						
	学生の学習成果 専門的学習成果:教育目標に掲げる①, ②, ③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果:教育目標に掲げる④の項目に関する姿勢を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・ 演習 ・実験・実習・実技) ・テキストに基づいて進め,必要に応じてグループ討議を行う。 ・授業内容の理解度確認のために,授業中に小テストを実施する。 ・必要に応じて心理テストを行い,自己理解・幼児理解の一助とする。 ・毎回,授業後には振り返りタイムを設定する。					
	予習・復習	・予習事項:毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項:毎授業回後に復習を求め,そのポイントを示す。					
	テキスト	・田中千穂子・栗原なるみ・市川奈緒子編『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ,2005年。 ※授業用に冊子ノートを準備すること。					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点であり,期末試験 (70 点) と小テスト (10 点) で測る。また,以下に示した 3 つの専門的学習成果について,専門的学習成果の評価配分 80 点にはおおよそ「①:②:③=30:30:20」の比重を置く。 ① 発達障害の類型とそれぞれの特徴を理解する。 ② 発達障害の援助に関する基礎的知識を習得する。 ③ カウンセリング技法の基礎的知識を理解する。						
汎用的学習成果 評価配分は 20 点である。授業ノートの提出状況やその予習・復習の内容,授業中の態度や演習の取り組み状況で評価する。毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い,授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し,加点の機会をも設ける。							
注意事項	<参考図書> 下山晴彦他『臨床心理学 16 巻 1 号』金剛出版,2016 年。 坂野雄二編『臨床心理学キーワード』有斐双書,2003 年。 日本教育カウンセラー協会『ピアヘルパーハンドブック』図書文化,2001 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
	<p><オリエンテーション> 授業内容の概略・進め方・成績評価・受講ルール。SGE。</p>
1 回	<p><臨床心理学とは何か①> ・授業内容：臨床心理学とは、どのような学問か臨床心理学の領域や歴史を概観する。障害という概念について概説する。 ・学習成果：臨床心理学の定義を理解する。 ・予習事項：臨床心理学者一人について概略を調べてくる。</p>
2 回	<p><子どもの心理療法・心理検査> ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について紹介する。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・予習事項：知っている心理療法か心理検査を一つ調べてくる。</p>
3 回	<p><発達障害の歴史的変遷①> ・授業内容：発達障害という概念の歴史について、概念成立からその後の展開を概観する。 ・学習成果：発達障害について、その医学的概念と教育福祉的概念の違いを理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 3 0～4 1）。</p>
4 回	<p><発達障害の歴史的変遷②> ・授業内容：日本における発達障害という概念の現状を概観する。また、発達障害という概念の展望について概説する。 ・学習成果：発達障害という概念の理解をより深める。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 4 1～5 1）。</p>
5 回	<p><発達障害の類型と特徴①> ・授業内容：知的障害について、その歴史、概念（定義）、頻度、特徴について概説する。 ・学習成果：知的障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 5 7～6 4）。</p>
6 回	<p><発達障害の類型と特徴②-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-> ・授業内容：広汎性発達障害の概念と類型を概説しながら、特に自閉症の基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害の概略を理解した上で、自閉症の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 6 4～7 8）。</p>
7 回	<p><発達障害の類型と特徴③-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-> ・授業内容：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について概説し、自閉症スペクトラム障害の概念や基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について理解した上で、自閉症スペクトラム障害の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：スペクトラムという用語の意味を調べてくる。</p>
8 回	<p><発達障害の類型と特徴④> ・授業内容：学習障害(限局性学習症)の歴史、概念（定義）、頻度、特徴などを概説する。 ・学習成果：学習障害（限局性学習症）について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 7 8～8 4）。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p><発達障害の類型と特徴④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：注意欠如/多動性障害(ADHD)の歴史，概念（定義），頻度，特徴などを概説する。 ・学習成果：注意欠如/多動性障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p 85～88）。
10 回	<p><第1回小テスト></p> <p>テスト範囲：第2回～第9回までの8回分の内容について小テストを実施する。</p> <p><発達障害への支援①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害に対する臨床心理学的援助法のあり方を紹介し，保育者としての支援のあり方を説明する。ピアサポートNo1。 ・学習成果：発達障害に対する保育者としての支援のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（第3章p102-3，144～148）。
11 回	<p><発達障害への支援②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。ピアサポートNo2 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（第6章p239～）。
12 回	<p><発達障害への支援③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する（DVD）。 ・予習事項：配布テキストの該当内容を熟読する。
13 回	<p><発達障害の事例①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：療育現場における自閉症の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。 ・学習成果：療育現場における自閉症の実際を理解する（DVD）。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p152～165）。
14 回	<p><発達障害の事例②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：療育現場における軽度発達障害の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。統合失調症やうつ病について知る。 ・学習成果：療育現場における軽度発達障害の実際を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p165～182）。
15 回	<p><まとめ></p> <p>全15回の授業内容を振り返りと質疑応答を行う。ピアサポートの総まとめを行う。また，期末試験についての説明を聴く。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	社会心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp OH : 金曜日 3 限 M棟 409号室							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>本科目では、社会的行動に関する基礎的な研究知見を学びながら、人の社会的行動について「あるある」「なるほど」と納得できる学びを目指す。具体的には、以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ④ 社会人として人との関わりに必要な論理的思考力を習得する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果> 教育目標に掲げる①, ②, ③の項目に関する研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果> 教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストに基づいて進め、集団心理をより理解するために、グループワークを実施する ・必要に応じて心理テストを行い、自己理解の一助とする。 ・毎回、授業後には振り返りタイムを設定する。 					
教育方法	予習・復習	<p>予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習をして授業に臨むこと。</p> <p>復習事項：基本的には授業で使用したテキスト内容の見直しをすること。また、参考図書等で確認すること。</p>					
テキスト	<p>使用テキスト：堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版，2013年。 必要に応じてプリント資料を配布。</p> <p>*授業用に冊子ノートを準備し、毎回、予習・復習をまとめておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。</p>						

学 習 評 価 の 方 法	<p>評価配分に関して</p> <p>専門的学習成果と汎用的学習成果について、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の評価配分および評価比重は以下の通りである。</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分は 70 点である。評価配分 70 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果の評価比重は、おおよそ「①：②：③＝15 点：15 点：40 点」である。</p> <p>① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p>③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。</p> <p>専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度確認テストを行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 70 点、汎用的学習成果 20 点、理解度確認 10 点とし、合計 100 点満点で最終評価を行う。</p> <p>評価ツールに関して</p> <p><専門的学習成果></p> <p>専門的学習成果の評価配分の合計 70 点は学期末に行う定期試験で測る。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>汎用的学習成果の評価配分 20 点のうち 10 点は授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた課題を課す。残り 10 点はノート提出状況やその内容、授業中の態度で測る。</p> <p>毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。</p> <p><授業内容の理解度></p> <p>理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う復習テストで測る。</p>
注 意 事 項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第 2 版』サイエンス社，2009 年。 ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書，2015 年

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p>【オリエンテーション】 本科目の講義内容・進め方・成績評価の方法・受講ルールに関する説明を行う。</p> <p>【はじめに】 ・受講学生に関心のあるテーマや事例を取り上げ、そこに内在する集団心理について議論する。→社会問題に内在する集団心理的な問題 社会心理学とは。 予習事項：テキストの目次について目を通してくる。</p>
2 回	<p>【社会の中における個人の心理①】 ・自己概念（自己知識）→自分の理解の仕方や内容について学ぶことによって、自己理解をより深めるための一助とする（心理テスト）。 予習事項：見えていない自分についていろいろ考えてくること。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
3 回	<p>【社会の中における個人の心理②】 ・自己評価→自分自身に対する評価はどのくらいか。また、その評価に影響を与える要因について学ぶことによって、より適応的な自己評価のあり方を理解する。 予習事項：最近の自分を振り返り、自分を評価してくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
4 回	<p>【対人認知・対人行動①】 ・対人認知→相手の理解の仕方やその理解が歪む時のメカニズムを学ぶことによって、他者をより正確に理解し、円滑な対人関係を築くための一助となる。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
5 回	<p>【対人認知・対人行動②】 ・対人魅力→人に魅力を感じる心のしくみについて学ぶことによって、日常の対人魅力の心理メカニズムを理解する。 予習事項：遠距離恋愛が上手いか上手くないか。それぞれの原因を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
6 回	<p>【対人認知・対人行動③】 ・原因帰属→自分や他者の行動を起こす原因がどのように規定されるのかを学ぶことによって、行動とその原因との関係を理解する。 予習事項：遅刻をした時の言い訳を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。</p>
7 回	<p>【第1回復習テスト】 第2回～第6回までの5回分の内容について復習テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間①】 ・人間関係の様相→人と人が関わるという基本的問題について学ぶことによって、人間という存在について理解するための一助とする。 予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 復習事項：人が関係性の中で生きている意義を認識する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p>【集団の中の人間②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動 (1) —集団のダイナミクス— <p>→集団特徴 (例, 社会的規範, 同調) について学ぶことによって, 円滑な集団活動を行えるための一助とする。</p> <p>予習事項: 授業で指示する。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておくこと。</p>
9 回	<p>【集団の中の人間③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの他者によって影響する自分の行動 (2) —他者存在の影響— <p>→集団特徴 (例, 社会的促進・抑制, 社会的手抜き) について学ぶことによって, 円滑な集団活動を行えるための一助となる。</p> <p>予習事項: 何か作業する時, そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出してくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておくこと。</p>
10 回	<p>【集団の中の人間④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団意思決定→みんなで何かを決める時, 何か問題を解決する時のリスクについて学ぶ。 <p>これによって, 集団活動におけるリスク軽減策を理解する。</p> <p>予習事項: 何かを個人で決める時と集団で決める時で, どんな違いがあるのか考えてくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておくこと。</p>
11 回	<p>【集団の中の人間⑤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ→効果的なリーダーシップについて学ぶことによって, 指導者としてのあり方を理解する。 <p>予習事項: 自分が尊敬できる人物を1人挙げ, その選んだ理由を考えてくる。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておくこと。</p>
12 回	<p>【集団の中の人間関係①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己表現のワーク→自分の自己表現の特徴を知り, 課題を発見する。 <p>予習事項: 授業で指示する。</p> <p>復習事項: 講義内容を見直し, キーワードは理解しておくこと。</p>
13 回	<p>【集団の中の人間関係②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現ワーク→自分も他者も大切にできる自己表現について学ぶ。 <p>予習事項: 配付資料を熟読してくる。</p> <p>復習事項: アサーティブな表現を考えてくる。</p>
14 回	<p>【第2回復習テスト】</p> <p>第8回～第13回までの7回分の内容について復習テストを実施する。</p> <p>【集団の中の人間関係③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな自己表現→ワークを体験して, 自己課題を達成すべく努める。 <p>予習事項: 復習テストに備えて勉強しておく。</p> <p>12・13回の復習をしておく。</p>
15 回	<p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの講義内容を振り返り, 必要なら補足する。 ・定期試験の出題内容について知る。

平成31年度教育計画							
科目名	幼児理解及び保育相談	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭 久子
質問受付の方法： (e-mail, オフィスアワー等) : igashira@owc.ac. OH 金曜日 9:10~17:00							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標： この講義では、保育者として保育相談をする上で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、養育者を対象としたカウンセリング的関わりを理解することを目的とするものであり、幼稚園（あるいは保育所）における幼児の生活や遊びの実態に即しながら、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための心理学的原理や対応の方法について理解するとともに、幼児や児童、生徒の各々の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な心理学的基礎知識を身に付ける。</p> <p>学生の学習成果： ・専門的学習成果：保育相談に関する基礎的知識を習得し、カウンセリング的な関わり方を理解できるようにする。 ・汎用的学習効果：保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し、学習効果を確認するために、講義中に小テストまたは、授業時間外に小レポートを課す。 ・カウンセリング的関わり方の理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 					
	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活事例からはじめる 保育相談支援」 吉田真理 青鞥社 2016 					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。その際、授業回数などを勘案し、おおよそ「①：②：③：④」=2：1：1：1の比重をかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①幼児理解に関する基礎的知識や考え方、基本的態度及び保育相談をする上で必要な基礎的知識を身につけ、幼児理解や保育相談の意義や原理を理解する。 ②幼児理解の具体的な方法（観察や記録など）及び保育相談をする際に必要となるカウンセリング的関わりを理解する。 ③乳幼児に対するアセスメントとその利用について理解する。 ④社会人として他者と関わる際に求められるコミュニケーション能力を高める。 <p>なお、評価の実施は、授業で行う課題（小レポート、小テスト30%）及び学期末に行う定期試験（70%）の結果を総合して行う。保育者としての使命感や倫理観については、受講態度や遅刻などを配慮する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等 小林郁子 小林久利 共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007年。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を心理学的なアプローチや具体的事例をもとに理解する。 学習成果 保育相談の基礎的教育目標が理解できる。 1. 本講義の目的と進め方 2. 保育相談とは</p>
2 回	<p><幼児理解・保育相談の意義> 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を確認しながら、それぞれに関わる幼児の発達や学びを捉える原理を、ピアジェやヴィゴツキーなどの代表的心理学的立場から理解する。 学習成果 家族構成の歴史的変化およびしつけの役割が理解できる。 1. 家族構成の歴史的変化・しつけの役割 (予習事項) 幼児理解について調べる。 (復習事項) しつけについて理解する。</p>
3 回	<p><幼児理解・保護者に対する保育相談の意義> 本時の目標 幼児理解に関して、ピアジェやヴィゴツキーなどの代表的心理学的立場からその原理的考察を深め、発達や学びについて理解する。また、それと関連づけながら幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度がどのようなものであるかも理解する。 学習成果 子どもの発達や地域社会とのつながりが少なくなったことが理解できる。 1. 地域社会とのつながりの変化 (予習事項) 教師の基礎的な態度について調べる。 (復習事項) 少子化問題について理解する。</p>
4 回	<p><子どもの最善の利益と福祉の重視> 本時の目標 前回までの復習をしながら、教師の基礎的な態度を確認し、幼児理解において「個」と「集団」がどのような関係にあるのかを捉える意義及びその方法としての観察法等の基礎的な事柄について理解する。 学習成果 子ども（0から6歳）までの発達が理解できる。 1. 子どもの発達とその理解 (予習事項) 障害児の特徴について調べる。 (復習事項) 子どもの発達について理解する。</p>
5 回	<p><保護者の養育力の向上に資する支援> 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を再度理解しなおすとともに、幼児のつまずき、保護者への対応などの具体的方法について理解する。その際、障害児の特徴もあわせて理解する。 学習成果 障害児の特徴が理解できる。 1. 障害児の特徴と発達検査 (予習事項) カウンセリング理論について調べる。 (復習事項) 障害児の特徴について理解する。</p>
6 回	<p><信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など> 本時の目標 これまでの幼児理解に関する内容と関連づけながら、幼稚園をはじめとする教育相談におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 学習成果 カウンセリングの基本的な理論が理解できる。 1. さまざまなカウンセリングの理論 (予習事項) カウンセリングにおける質問紙法について調べる。 (復習事項) カウンセリングの理論について理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><地域資源の活用と関係機関との連携・協力></p> <p>本時の目標 幼児理解及び教育相談を理解するために、具体的方法としての幼稚園をはじめとする学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解する。</p> <p>学習成果 質問技法について3種類の方法が理解できる。</p> <p>1. カウンセリングの理論 (予習事項) カウンセリングにおける傾聴技法について調べる。 (復習事項) カウンセリングにおける質問技法について理解する。</p>
8 回	<p><保育に関わる保護者への指導></p> <p>本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。</p> <p>学習成果 コミュニケーションの取り方について技法としての知識を得る。</p> <p>1. 傾聴技法 (予習事項) コミュニケーション技法について調べる。 (復習事項) カウンセリングにおける傾聴技法について理解する。</p>
9 回	<p><保育相談支援の内容></p> <p>本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を、心理学的なアプローチにより理解する。</p> <p>学習成果 グループワークについて事例をもとに理解する。</p> <p>1. グループワーク (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 集団でのコミュニケーション技法について理解する。</p>
10 回	<p><保護者支援の方法と技術></p> <p>本時の目標 学校ごとの職種や校務分掌に応じて、幼児、児童、及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を具体的な事例をもとに学び、さらに例示することができる。</p> <p>学習成果 保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。</p> <p>1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
11 回	<p><保育相談支援の計画と記録></p> <p>本時の目標 学校教育において、カウンセリングマインドの必要性を具体的事例や実際に事例の対応をもとに理解する。</p> <p>学習成果 保育相談の具体的な事例の対応がより深く理解できる。</p> <p>1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
12 回	<p><支援の評価とカンファレンス></p> <p>本時の目標 学校現場における保護者に対する教育相談の進め方を、幼児に対するものとの比較などを通して理解する。</p> <p>学習成果 子どもと養育者の問題に対する事例の対応が理解できる。</p> <p>1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><保育所における保育相談の実際></p> <p>本時の目標 教育相談の計画の作成に必要な校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性について、実際の学校現場の様子などの具体的レベルで理解する。</p> <p>学習成果 養育者自身の問題に対する事例の対応が理解できる。</p> <p>1. 事例に応じた対応の検討 (予習事項) 事例の対応方法を考える。 (復習事項) 事例の対応方法を理解する。</p>
14 回	<p><虐待の類型と保護者支援></p> <p>本時の目標 学校現場において問題とされる「いじめ」「不登校」「不登園」「虐待」「非行」などの課題に対して、幼児や児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を考える。</p> <p>学習成果 実際の心理支援の技法を理解できる。</p> <p>1. 母親の育児不安と育児ストレス (予習事項) 子育て支援の有効な心理技法としてのロールレタリングを調べる。 (復習事項) 母親の心理的支援の方法を理解する。</p>
15 回	<p><児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援></p> <p>本時の目標 教員として幼児理解や教育相談に関わる際に、地域の医療・福祉・心理等の医療機関との連携がどのような意義や必要性を有しているかについて理解する。</p> <p>学習成果 保育相談の基礎を理解し実践する力を身に着ける</p> <p>1. 本講義の総復習をする。 (予習事項) 子どもの発達について調べる。 (復習事項) 期末試験に向けて本講義の総復習をする。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	教職実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井頭久子、浦上博文 都田修兵、鈴木久子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) 金曜 16:20~17:00 井頭 igashira@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>教員として求められる4つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項をテーマとする。</p> <p>これまでの授業や教育実習を通じた学びを振り返り、「幼稚園教諭」になる上で自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、教職生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる4つの事項について知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。</p> <p>また、汎用的学習成果として、保育者としての使命感や社会の一員として求められる倫理観や価値観を獲得し他者との豊かな人間関係力を養う。</p>						
	教育方法	<p>授業の進め方 (講義・<u>演習</u>・実験・実習・実技)</p> <p>教員として求められる4つの事項について、グループ討議・模擬実践・事例研究などを通して総合的に学ぶ。また、幼稚園の教育現場との連携を図り、幼稚園教諭による講演・ディスカッションを実施する。4名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてチーム・ティーチングの方式で行う。また、入学時からの履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。</p>					
学習評価の方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 					
	ステキ	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領解説」(文部科学省 平成20年10月) 					
学習評価の方法	<p>以下の4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。</p> <p>①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。</p> <p>②社会性や対人関係能力を形成する。</p> <p>③幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。</p> <p>④保育内容の指導力の基礎を獲得する。</p> <p>学習評価は、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。評価は、討議記録、模擬実践(発表会)、レポート、指導案、感想文など(60%)、小論文(40%)により実施する。受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。幼稚園教育実習の成績評価は幼稚園教育実習の成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。</p>						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <p>参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。</p> <p>その他：知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には幼稚園教育実習を受講し終わっていることが必要となる。</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の目標と計画 ・授業の内容と進め方、単位認定に関する説明・スケジュール・担当者の紹介 ・活動 講義・グループ討議「これまでの学修の振り返り・幼稚園教諭になるための自己課題について」履修カルテの作成 ・シラバスの解説 ・幼稚園教諭への質問 ・課題 討議記録の作成
2 回	<p><幼児理解・学級経営・対人間関係力> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・ロールプレイング・グループ討議「教員間の協力・家庭との連携・保護者面談について」 ・活動 ロールプレイング及びグループ討議「保護者面談について」 ・履修個人票の作成 ・小学校の生活科の目標と内容について
3 回	<p><使命感・責任感・教育的愛情> (井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義 幼稚園教諭の役割・職務内容（年間行事）について
4 回	<p><使命感・責任感・教育的愛情・対人間関係能力> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 幼稚園教育実習経験の共有 ・課題 講義記録及び意見文の作成 ・活動 グループ討議「講演についてのまとめと自己の課題」 ・課題 幼稚園教諭としての自己課題の探究
5 回	<p><使命感・責任感・愛情> (都田) (浦上・鈴木・井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭に必要な指導力、学級経営、指導案について」 ・課題 幼稚園教諭とのディスカッション「幼児に対する教育的愛情、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との連携について」 ・課題 ディスカッション記録の作成講義記録及び意見文の作成グループ討議 ・課題 討議記録の作成
6 回	<p><社会性や対人間関係能力> (浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・講演のまとめ活動 グループ討議・発表「現場幼稚園教諭講演・ディスカッション授業のまとめ・幼稚園教諭としての自覚の形成」
7 回	<p><教育課程と学級経営> (都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議「子どもたちと信頼関係を築く幼児理解・学級経営について」 ・課題 幼稚園教育実習における子どもたちと信頼関係を築く方法と幼児理解・学級運営について

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の合同発表会のVTR視聴 ・財の実践計画作成
9 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(前半)」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題 学習指導案を作成する
10 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(後半)」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題 指導案を修正する
11 回	<p><保育内容指導力> (鈴木・都田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(前半)」 ・模擬保育における注意点 ・教材・教具の作成 ・課題 模擬授業の準備
12 回	<p><保育内容指導力・発表会リハーサル> (鈴木・都田・浦上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成(後半)」 ・模擬保育における注意点 ・課題 模擬授業の準備・課題 発表記録の作成・小論文の課題について課題を提示する。「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」 ・小論文も課題提示
13 ・ 14 回	<p><保育内容指導力> (浦上・井頭・都田・鈴木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 合同発表会「模擬実践の講評、自己・相互評価」 ・課題 発表記録の作成
15 回	<p><確認とまとめ> (浦上・井頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・まとめ「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」を小論文に書く。 ・活動 合同発表会の振り返り ・模擬授業の振り返りとまとめ <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの振り返り

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	子ども家庭支援論	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 子ども家庭支援の意義と役割を理解し、保育士による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、こども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。					
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。					
	テキスト	市販のテキストは使用しないが、適宜資料・プリントを配布する。					
学習評価の方法	専門的学習成果 評価配分は 80 点であり、期末試験で測る。また 80 点は、以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 評価は、課題・授業中に実施し提出する課題 (20 点)、及び期末試験 (80 点) により実施する。						
	汎用的学習成果 評価配分は 20 点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。						
注意事項	参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ 21 の技法』中央法規出版、2008 年。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p><オリエンテーション・こども家庭支援の意義と必要性></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、子ども家庭支援の意義・その必要性を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・時代の移り変わりの中で、家族というものも多様に変化してきた経緯を理解したうえで、保育士の業務として保護者支援が必要不可欠のこととなり、社会的に認められてきたことを知らせる。子どもに現れる様々な問題を解決するためには、子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識を持つ。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：シラバスで学習内容を確認しておく。 ・復習事項：子ども家庭支援の意義と必要性に関する課題を仕上げる。
2 回	<p><子ども家庭支援の目的と機能></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の目的と機能を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、どのように機能していくべきか考えることができるようになる。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：家庭・家族の概念を調べておく。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の目的と機能に関する課題を仕上げる。
3 回	<p><保育者による子ども家庭支援とその意義></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態について統計資料を使いながら把握し、保育士の専門性を活かした支援とその意義を理解する。 2. 本時の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者による子ども家族支援の意義とその必要性を理解する。 4. 予習及び復習事項 <ul style="list-style-type: none"> ・予習事項：保育士の専門性とは何かを調べておく。 ・復習事項：保育士の専門性と子ども家庭支援の意義に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
4 回	<p><子どもの育ちの喜びの共有></p> <p>1. 本時の目標 子育てにおける不安・負担感・ストレスの要因について統計資料を使いながら、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育士の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。</p>
5 回	<p><保護者及び地域の実践力向上に資する支援></p> <p>1. 本時の目標 家庭を取り巻く社会的状況を確認し、子育て支援サービスの概要や保護士及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子育て支援サービスについて調べておく。 ・復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関する課題を仕上げる。</p>
6 回	<p><保育者に求められる基本的態度></p> <p>1. 本時の目標 保育士に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・保育士に求められる基本的態度を理解し、説明できる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。</p>
7 回	<p><家庭の状況に応じた支援></p> <p>1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育士としての対応法を確認する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・事例をもとにロールプレーをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいか考察できる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：支援の展開過程、保育士に求められる基本的態度を再確認しておく。 ・復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><社会資源との連携・協力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育所・幼稚園・認定こども園、地域子育て支援拠点事業における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：最寄りの地域に関する子育て支援について調べておく。 ・復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。
9 回	<p><子育て家庭に対する支援体制></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育士としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源の活用、調整、開発のための保育士としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。
10 回	<p><子育て支援施策・次世代育成支援施策></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。
11 回	<p><さまざまな子育て家庭への支援内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子育て家庭支援について調べておく。 ・復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
12 回	<p><保育所等を利用する子ども家庭支援></p> <p>1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：児童福祉法・保育所保育指針の本時関連の内容を確認しておく。 ・復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。</p>
13 回	<p><地域の子育て家庭への支援></p> <p>1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育士の役割や支援者のあるべき姿を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：地域子育て家庭支援に関する地元の取り組みを調べておく。 ・復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。</p>
14 回	<p><要保護児童等及びその家庭に対する支援></p> <p>1. 本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。</p> <p>2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・保育士は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：児童虐待に関する内容について調べておく。 ・復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。</p>
15 回	<p><子ども家庭支援に関する現状と課題></p> <p>1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育士の役割を確認する。</p> <p>2. 本時の活動 ・本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。</p> <p>3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。</p> <p>4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	乳児保育 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山本 婦佐江
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : B 3 0 7 研究室 fusae@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>乳児保育の目的と役割を理解し、発育・発達を踏まえた援助や関わり等、将来的に保育者となる者としての基礎的な知識を理解するとともに、子育て家庭を取り巻く環境や社会的状況、課題等について学ぶことを目的とし、以下の4点を主な幕表とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と役割 2. 乳児保育の現状と課題 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 4. 乳児保育における連携・協働 <p>学生の学習成果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的学習成果：将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果：人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義)・演習・実験・実習・実技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜学習の理解を深めるために参考資料を配付する。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。 	<p>予習・復習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。 	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷 香 : 2019「乳児保育 I・II」中央法規 ・資料「0～3歳未満の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 			
学習評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上記4つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 80% (試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20% (提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 授業始めと終わりの挨拶励行、私語をしない、遅刻をしない等 受講態度に問題があった場合は、ケースに応じて減点する。 学習評価は、上記を総合して行う。 						
注意事項	<p>参考図書等：</p> <p>田中真介監修 乳児保育研究会編書：2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい</p>						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。</p> <p><乳児保育の目的と役割> ・学習のポイント：乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育必要性さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について理解する。</p> <p>・課題：「乳児保育の目的と役割」についてまとめ提出する。</p> <p>・予習：あかちゃんってどんなイメージか考えてくる。</p>
2 回	<p><乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題> ・学習のポイント：子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。</p> <p><あかちゃんの能力について学ぶ> ・学習のポイント：DVD「あかちゃん このすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく、実際にはどんな能力があるのか認識する。</p> <p>・課題：視聴後、「あかちゃんの能力」についてレポートを書き提出する。 (感じたこと気づいたこと、今後どう生かしていきたいか等)</p> <p>・復習：「乳児保育の目的と役割」について確認する</p> <p>・予習：子育て支援と待機児、乳児院について考えてくる</p>
3 回	<p><保育所における乳児保育> ・学習のポイント：保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状について学ぶ。</p> <p>・演習：「乳児保育の現状」についてまとめ提出する。</p> <p><保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育> ・学習のポイント：乳児院の役割と支援方法を理解し、乳児保育の基礎的理解を深める。</p> <p><誕生～6か月未満の発達と保育> ・学習のポイント：「0～3歳未満児の発達と援助のポイント」をもとに、乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 資料「0～3歳未満児の発達と援助のポイント」</p> <p>・課題・宿題：「誕生～6か月未満」について、発達の特性・保育者の援助を記入し提出する。</p> <p>・復習：乳児保育における目的・役割・現状について確認する</p> <p>・予習：泣き方の見分け方、はいはいの発達について調べてくる。</p>
4 回	<p><6か月～1歳未満の発達と保育> ・学習のポイント：「0～3歳未満児の発達と援助のポイント」をもとに、乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 資料「0～3歳未満児の発達と援助のポイント」</p> <p>ビデオ：「乳児保育の実際 前半」を視聴し 誕生～6か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。</p> <p>・課題：「6か月～1歳未満」について、 発達の特性・保育者の援助を記入し提出する。 資料「泣き方の見分け方」、「はいはいの発達」について、発達の内面を学ぶ。</p> <p>・復習：「誕生～6か月未満」の発達の特性・保育者の援助について確認する。</p> <p>・予習：身近にある家庭的保育・小規模保育等について調べてくる。</p>
5 回	<p><家庭的保育・小規模保育等における乳児保育> ・学習のポイント：小規模保育等の保育の特徴、課題について学ぶ。 ビデオ：「乳児保育の実際 後半」を視聴し6か月～1歳3か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。</p> <p><1歳～2歳未満の発達と保育> ・学習のポイント：「0～3歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに 1～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。資料「0～3歳未満の発達と保育者の配慮・援助のポイント」</p> <p>・課題・復習：「1～2歳未満」について、発達の特性・保育者の援助を記入し提出する</p> <p>・予習：子育て支援にはどのようなものがあるか調べてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p>< 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：どのような支援が必要なのか？子育て支援が必要とされる背景や具体的な支援を知り、その目的や方法を学ぶ。 <p>< 2歳～3歳未満の発達と保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：「0～3歳未満までの発達の特徴と保育者の援助のポイント」をもとに、1～2歳未満児の基本的な発達の特徴と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。資料「0～3歳未満の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 ・課題：「2～3歳未満」について、発達の特徴・保育者の援助を記入し提出する。 ・復習：小規模保育等の保育の特徴、課題、1～2歳未満児の発達の特徴について確認する。 ・予習：食事の時の環境について考えてくる。
7 回	<p>< 0歳児～満3歳児の生活と環境 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：子どもが安全・安心で情緒の安定した生活を送る中で、その育ちを支えるための保育環境をどう構成するか理解する。 <p>1. 生活の場としての環境の整え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題：ワークシートに年齢ごと生活環境をまとめる ・復習：「0～3歳未満の発達と援助」について発達過程を確認する。 ・予習：0～3歳未満児のあそびについて、どのような物があるか考えてくる。
8 回	<p>< 0歳児～満3歳児の遊びと環境 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：発達と環境構成の関連について「環境を通して行う保育」、0歳児の保育における環境構成の方法について学ぶ。 <p>1. 環境を通して行う保育</p> <p>0歳児・1歳以上3歳未満児の遊びの（学び）環境の整え方について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題・復習：「0歳児・1歳以上3歳未満児の環境を通じたあそび」をまとめ提出する。 ・予習：クラス（年齢）が変わる時、子ども側・保育士側にどんな問題があるか考えてくる。
9 回	<p>< 0歳児～満3歳児の保育に移行する時期の保育 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：発達の連続性について指針を踏まえ、養護と教育の視点加えながら3歳以上児の保育につながる移行までを年齢別に学ぶ。 <p>1. 乳児保育と保育者の役割、0～1歳児、1～2歳児、2～3歳児の移行の検討と配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題・復習：まとめ「0歳児・1歳以上3歳未満環境を通じたあそび～3歳未満の発達と援助」の確認。 ・予習：食事やトイレの場面では、どのようなことに配慮してかかわっているか考えてみる。
10 回	<p>< 0歳児～満3歳児の保育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり > 担当制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児（0歳児）・1歳以上3歳未満児の発達の様相と援助のポイント、配慮事項を学び、保育実践の手がかりとする。 <p>1. 月齢差・個人差に対応した援助や関わりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題：「各年齢での発達過程をもとに保育者のかかわり（援助）」をまとめ提出。 ・復習：各年齢での移行時にどのようなことに気をつけたらよいか確認する。 ・予習：乳児保育テキストをもとに「保育・発達を踏まえた保育における配慮」をみておく。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><0歳児～満3歳児の保育・発達を踏まえた保育における配慮>健康・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児（0歳児）・1歳以上3歳未満児の発達は著しく、また個人差が大きいことから一人ひとりの子どもに応じた発達の援助が求められる。発達に応じた安全・安心の保育をするためには保育者はどのような配慮をすればよいのか保育所保育指針に即して学ぶ。 <p>1. 保育所保育指針から「3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：事例をもとに話し合い、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。 「トラブルの対応について」について 資料 「ひっかき・かみつきへの対応」 4者の立場（被害者・加害者・保護者・園として対応の仕方）からまとめる。 ・復習：0～3歳未満児の発達を考えた配慮・援助について確認する ・予習：乳児保育テキストをもとに「指導計画にはどんなものがあるか」確認する。
12 回	<p><乳児保育における計画・記録・評価とその意義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：発達にふさわしい保育内容を子どもたちに提供するためには、計画的に保育をすすめることが不可欠である。保育の経過を振り返ることで保育の質の向上、保育の専門性の向上につなげることができる。保育計画の概要を学び理解する。 <p>1. 計画、実践・記録、評価 2. 保育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：テキスト「記録と保育の質の向上」について事例を通して話し合う。 ・復習：「トラブルへの対応の仕方」について確認する。 ・予習：保育現場において、どのような連携が必要か考えてみる。
13 回	<p><職員間の連携・協働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：保育現場での保育者同士のチームワークの実際を学び、連携や協力して保育を進めるために必要な自身のレベルアップについて考えていく。 <p>1. 「保育の専門性とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題：「子どもにとって、保護者にとって保育者とは」「チームで進める保育とは」「子どもや保護者、職員との信頼関係構築のために」について整理する。 ・復習：保育計画の概要について確認する。 ・予習：保護者との連携とは、どのようなことが必要か考えてみる。
14 回	<p><保護者との連携・協働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：乳児保育において、子どもの健やか育ちを実現するためには、保護者と保育者がどのように連携すればよいのか学ぶ。保育者から保護者へのはたらきかけの方法や、親が育つことによって子どもたちがどのような育ちの力につながっていくのかを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・演習：「子育て支援の必要性と保育者の役割」について事例を通して話し合う。 ・復習：職員間の連携・協働について確認する。 ・予習：保育所を取り巻く地域の関係機関にはどのようなものがあるか考えてくる。
15 回	<p><自治体や地域の関係機関等との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のポイント：子育て支援や虐待から子どもの命を守るためのセーフティネットの重要性および地域の社会資源との連携・協働のあり方、保育者や保護者の役割について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・課題・演習：「保育所における関係機関との連携」「児童虐待防止の現場での対応」「連携の現状と課題」について理解し、保育士の立ち位置について認識する。 ・復習：保護者との連携・協働、子育て支援の必要性について確認する。

平成 31 年 度 教 育 計 画									
科目名	乳児保育Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	山本 婦佐江		
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : B 3 0 7 研究室 fusae@owc. ac. jp									
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>乳児保育の基本的な考え方について理解し、3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びや生活の実際、環境構成、援助、配慮について理解するとともに、指導計画と記録のあり方について学ぶことを目的とし、以下の4点を主な目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 <p>専門的学習成果：乳児保育Ⅰの学びを基礎として、発育・発達の過程や特性を踏まえた子どもへの関わり方や保育環境について理解を深める。</p> <p>汎用的学習成果：人間形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。</p>								
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、講義、グループ討論、演習を行う。 ・受講者の理解を図るため、課題により資質能力の確認、まとめを行う。 						
	予習・復習	<p>予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項：毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合もある。</p>							
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・監修：公益財団法人 児童育成協会 編集：寺田清美 大方美香 塩谷 香 : 2019「乳児保育」中央法規 								
学習評価の方法	<p>評価を以下の4つの学習成果についてその獲得度を量的に評価する。10、30、20、20点で計80点、汎用学習成果計20点を合わせて100点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の基礎について理解する。(1回) 2. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて理解する。 0～2歳児の生活の流れ・保育環境・援助(2～10回) 3. 乳児保育における配慮について理解する。(11, 12, 13回) 4. 乳児保育における計画について理解する。(14, 15回) <p>なお、汎用学習成果について、「保育者としての態度・信念」は、課題や演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。</p>								
注意事項	<p>参考図書：</p> <p>志村 聡子編著：「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院</p> <p>評価として提出物、演習課題を重視する。</p>								

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション> 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。</p> <p><乳児保育の基本> ・学習のポイント：保育者との応答的かかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか、理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと保育者との関係性について 2. 乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容 <p>演習：①応答的なかかわりと言葉の育ちにはどんな関係があるか考えてみよう ②「物」をめぐって他者との関係性がどのように発達していくか考えてみよう</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p>
2 回	<p><子どもの生活の流れ（0歳児クラス）> ・学習のポイント：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしたい視点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 0歳児のディリープログラムについて 2. 乳児のディリープログラムの特徴 3. 一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践 <p>演習：①「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみよう。 ②育児担当制を実施する場合の留意点は何であろうか。メリット、デメリットも含めて考えてみよう。</p> <p>復習：子どもと保育者との関係の重要性について再確認する。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p>
3 回	<p><子どもの保育環境（0歳児クラス）> ・学習のポイント：子どもの保育環境は、大きく人的環境と物的環境に分けられる。なかでも、物的環境における心地よい室内環境や発達を促す玩具について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指針からみる保育環境 2. 乳児が過ごしやすい部屋 3. 玩具 <p>演習：①家庭的雰囲気にするために、どのような工夫ができるか考えてみよう ②ワークシート⑨「あそび・遊び方・育つもの」を項目ごとに記入しながら、その玩具を使った遊びが発達課題にどのように関連するのかを考えてみよう</p> <p>復習：0歳児のディリープログラムについて再確認する。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0歳児の発達」について確認しておく。</p>
4 回	<p><子どもの援助の実際（0歳児クラス）> 学習のポイント：生活（「養護」と遊び（5領域につながる「3つの視点」）の援助について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の援助の実際 2. 遊びの援助の実際 <p>演習：①0歳児クラスの食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみよう</p> <p>復習：0歳児クラスの保育環境について再確認する</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p>
5 回	<p><子どもの生活の流れ（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の一日の生活（ディリープログラム）に沿って、保育者の配慮を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） <p>演習：①朝の視診について考えてみよう ②家庭との連携</p> <p>復習：0歳児の生活と遊びの援助について大切なことを確認しておく。</p> <p>予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
6 回	<p><子どもの保育環境（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の発達の特徴に配慮する中で、保育者の援助がスムーズに行える環境設定や、地域性における工夫について学ぶ。</p> <p>1. 環境の整備（生活と遊びの場） 演習：手作り玩具をつくってみよう 復習：1歳児の生活の流れの中で、大切な保育者の配慮について確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「1歳児の発達」について確認しておく。</p>
7 回	<p><子どもの援助の実際（1歳児クラス）> ・学習のポイント：1歳児の発達の特徴を考えてどのように援助したらよいか？保育者のかかわり方について、生活と遊びの両面から、具体的な援助について学ぶ。</p> <p>1. 生活の援助 2. 遊びの援助 資料「スプーンと箸について」により、スプーンから箸に移行する発達の見分け方や食器の選び方について学ぶ。 演習：食器の選び方について、大切なことをワークシートに記入する。 復習：援助しやすい環境設定について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p>
8 回	<p><子どもの生活の流れ（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児の生活の流れを理解し、2歳児の発達の課題である生活習慣の自立を促すための環境構成や、保育者のかかわりとは何かについて学ぶ。</p> <p>1. 2歳児クラスの生活の流れ（ディリープログラム） 演習：①子どもの生活場面について、自立をうながす保育者のかかわりを考える。 食事・排泄・衣服の着脱・清潔・その他の場面などから 復習：生活と遊びの中での具体的な援助の仕方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p>
9 回	<p><子どもの保育環境（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスの物的環境の1つである玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するかを学ぶ。</p> <p>1. 玩具のそろえ方のポイント 2. 見立て遊び 3. 手指の発達をうながす遊び 演習：「施設内外の適切な環境の維持に努める」とは（音環境・声の大きさなど） 復習：生活習慣の自立をうながす保育者のかかわり方について確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「2歳児の発達」について確認しておく。</p>
10 回	<p><子どもの援助の実際（2歳児クラス）> ・学習のポイント：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認し、保育所保育指針に示されている、「育みたい資質・能力」につながる2歳児の育ちについて理解する。</p> <p>1. 手指の発達をうながす遊びと生活習慣 2. ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学ぶ。 演習：ビデオを視聴して、ワークシートに場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。話し合いを通して相手の意見や気づきを共有する。 復習：玩具が子どもの発達にどのように関係するかを確認する。 予習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について考えてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
11 回	<p><子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮> ・学習のポイント：子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とは何かを保育所保育指針から確認し、現状で起こっている事故などについて知り、基本的な知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針の内容 2. 子どもの死亡および事故の現状と課題 3. 情緒の発達 <p>演習：①乳幼児の愛着形成を考慮した保育者のかかわり方を考える ②危機管理における保育者の配慮と子どもの安全教育</p> <p>復習：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認する。</p> <p>予習：保育者、その他の専門職、保護者との連携について考えてくる。</p>
12 回	<p><集団での生活における配慮> ・学習のポイント：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集団保育と個々への援助 2. 保育者同士と他職種・保護者との連携 <p>演習：保護者・保育者同士・他職種との連携について考えてみよう。</p> <p>復習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮とは</p> <p>予習：環境の変化や移行に対する配慮について考えてくる</p>
13 回	<p><環境の変化や移行に対する配慮> ・学習のポイント：移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助のあり方に関する基本的事項を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移行とは何か 2. 環境の変化や移行に対する配慮とは <p>演習：子どもがスムーズに移行するために何をしたらよいかを考えてみよう</p> <p>復習：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か確認する。</p> <p>予習：乳児保育における計画にはどのようなものがあるか考えてくる。</p>
14 回	<p><長期的な指導計画と短期的な指導計画> ・学習のポイント：長期的な指導計画と短期的な指導計画について学び、指導計画の必要性について考える。指導計画の評価（保育の振り返り）について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の指導計画から・保育の振り返りについて <p>演習：なぜ、指導計画が必要かを考えてみよう</p> <p>復習：子どもがスムーズに移行するために何をしたらよいか確認する。</p> <p>予習：個別的な指導計画と集団の指導計画とはどんなものか考えてくる。</p>
15 回	<p><個別的な指導計画と集団の指導計画> ・学習のポイント：個別的な計画と集団の計画について理解し、個別の指導計画の必要性について学ぶ。個別計画を立てるには家庭との協力・連携の必要性について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別的な計画・集団の計画 2. 保護者との連携 <p>演習：個別の計画作成にあたり、月齢差による発達のちがいや個人差について考えよう</p> <p>復習：指導計画の保育の振りの必要性について</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	障害児保育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法		e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp		OH:水曜日 2限 M棟 409室			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷を学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別に配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 <p>学生の学習成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門的学習成果 幼児一人一人の特性に応じ障害や発達の課題に即した個別指導を行う能力を獲得する。 2. 汎用的学習成果 保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を構築する。 						
	教育方法	<p>授業の進め方</p> <p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育に必要な知識の習得は、講義形式で行う。 ・実践的な対応技能の習得は、演習形式で行う。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるため、予習や復習を奨励し、グループワークを行う。 					
	<p>予習・復習</p> <p>テキスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。 <p>・藤永保 監修「障害児保育」萌文書林 2015 年</p>					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についておよそ等分にその獲得度合を評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 障害児及びその保育について理解する。 ② 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する。 ③ 障害のある子どもの保育計画を作成し、個別支援及び他の子との関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。 ④ 保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ⑤ 社会人として他者と関わる際に求められるコミュニケーション能力を高める。 <p>評価は、課題、小テスト(30点)、及び期末試験(70点)により実施する。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森 哲弥 障害児教育&遊びシリーズ ⑦障害児の遊びと手仕事 黎明書房、2001年 ・七木田 敦編著 「キーワードで学ぶ障害児保育入門」 保育出版社 2008年 ・佐々木正美 監修 「発達障害のある子が楽しめるあんしん遊び」 すばる舎 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><オリエンテーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 授業の進め方、学習予定、学習評価の方法について説明する。 <p><障害児保育とは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害の捉え方と障害児保育の歴史について概説する。障害のある子どもない子どもともに発達していく保育のあり方を探っていくことを伝える。 ・学習成果 障害児保育は、特別な支援を必要とする乳幼児のための保育であること、子どもの「困り感」を理解し、支援していくことであることを知る。 ・予習事項 テキスト第3章 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児の理解と支援を読む。復習として、第1章2章を読む。
2 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児、言語障害児等の理解と支援。それぞれの障害について、予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 それぞれの障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第4章 知的障害児の理解と支援を読む。
3 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 知的障害児の理解と支援。知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴について予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 知的障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第5章 発達障害児の理解と支援を読む。
4 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 発達障害児の理解と支援。発達障害について、概要を説明する。自閉症について予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育つことの大切さを知る。重症心身障害児、医療的ケア児を理解し援助法を知る。 ・学習成果 PDDについて正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第6章 注意欠陥・多動性障害を読む。
5 回	<p><障害の理解と保育における発達の支援（4）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 注意欠如・多動性障害、限局性学習障害について、予習した内容を発表する事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果 注意欠如・多動性障害について正しい知識を持つ。 ・予習事項 テキスト第7章 子ども一人一人の発達をうながす生活と遊びの環境を読む。
6 回	<p><障害児保育の実際（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害を持っている子どもの発達を支え、うながす「生活」と「遊び」の環境の大切さを説明する。そのことをふまえ、集団での遊びをグループごとに考えることができるようにする。障害児だけでなくその他の特別に配慮を要する子どもの理解と援助について知る。 ・学習成果 グループ別に、障害児に配慮した集団遊びの実施計画を立てることができる。 ・予習事項 テキスト第7章 子ども一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
7 回	<p><障害児保育の実際（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 グループ別に実施計画に基づいて元ロールプレーをし、振り返りをする。 ・学習成果 障害児に配慮した指示の出し方や支援ができたかどうかを自覚する。 ・予習事項 テキスト第8章 子ども同士のかかわりと育ち合いを読む。
8 回	<p><障害児保育の実際（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子ども同士のかかわりと育ち合いはどのような道筋でできていくのか、障害を持った子どもの事例を通して理解していく。 ・学習成果 保育者同士の話し合いや助け合いが、一人一人の子どもの成長や発達の見守りに通じることを理解する。 ・予習事項 テキスト第9章 職員間の協働を読む。
9 回	<p><障害児保育の実際（4）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 子ども同士のかかわりと育ち合いはどのような道筋でできていくのか、障害を持った子どもの事例を通して学ぶ。障害児保育における子どもの健康と安全についても知る。 ・学習成果 他の子どもの行動に関心を持ち始めた時、どのように支援していけばよいかを理解する。 ・予習事項 テキスト第10章 保護者や家族に対する理解と支援の方法を読む。
10 回	<p><家庭及び関係機関との連携（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保護者が、子どもの障害を受容していく過程を知ることにより、障害を受け入れていくことの困難さに共感する。さらに、保護者と保育者の立場でロールプレーをし、保護者対応の留意点にも気づく。 ・学習成果 少しでも安定した親子関係を築くためには、保育者の保護者支援の必要性を理解する。また、保護者間の交流や支え合いの支援の必要性が分かる。 ・予習事項 テキスト第11章 地域の専門機関等との連携や子ども一人一人の支援計画の作成を読む。
11 回	<p><家庭及び関係機関との連携（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 地域の専門機関について、どのようなところがあるのかを知る。また、専門機関と連携していくために必要な個別支援計画の作成について知る。 ・学習成果 障害児支援制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携協・協働が必要であることを理解する。 ・予習事項 テキスト第12章 小学校などとの連携を読む。
12 回	<p><家庭及び関係機関との連携（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害を持っている子どもが小学校へ入学するにあたり、保育園・幼稚園との生活の違いを考え、保護者の心配に寄り添うことができるようにする。また、適切な教育が受けられる学校の種類や就学相談の制度について知る。 ・学習成果 小学校就学にあたってスムーズに入学できるように保育者に求められることは、どんなことか分かる。 ・予習事項 テキスト第13章 保健・医療における現状と課題 14章 福祉教育における現状と課題を読む。

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
13 回	<p><障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題（1）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 保健・医療機関の役割と現状、福祉の分野と教育の分野での支援がどのように行われているかについて知る。 ・学習成果 障害者自立支援法や発達障害者支援法などの新しい法律のもとで、イメージの変化や支援の対象となる人のひろがりが出てきていることを知る。 ・予習事項 テキスト第15章 支援のひろがりをつなぐ課題を読む。
14 回	<p><子<障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題（2）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 支援のつながりの具体的な事例に添って、保育者、教育者、保護者など様々な立場にたって取り組んでいる現状を知る。 障害児を主人公にしたビデオの視聴。 ・学習成果 支援の取り組みは、時間はかかるが、実を結ぶものになるよう、保育者としてできることを自分なりにまとめる。 ・予習事項 テキスト第2章 障害児保育の基本を読む。
15 回	<p><<障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題（3）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容 障害児保育を考える上で理解しておかなければならない理念としてのノーマライゼーションについて知る。 ・学習成果 ノーマライゼーションやインクルージョンについて、小グループで考えを話し合い発表することを通して、難しいことではあるが理念の実現を目指していきたいという気持ちを育てる。 <p><総復習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全15回の内容を復習し、質疑応答。

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	保育実習指導 I	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限							
教育目標と学生の学習成果	教育目標 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。						
	学生の学習成果 専門的学習成果として、教育目標に挙げる 5 項目を習得する。 また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自効努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。						
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。					
	予習・復習	・授業に対する予習・復習は毎回義務付けられる。 ・授業を受けての「自己課題と対策」などに関しては、シャトルカードに記述し、次回の振り返りと学びの確認に活用する。					
	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。					
学習評価の方法	保育所実習 I、施設実習のそれぞれについての実習指導を 50 : 50 の比重で評価し合計 100 点満点とする。各実習で以下の 5 つの学習成果 (授業課題、調査表やレポート課題の提出状況) について同じ比重で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。 ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実習に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。						
注意事項	※「保育実習指導 I」は、1 年次後期から 2 年次前期にかけて実施される。 ※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。 ※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 実習までのスケジュール 4. 開講にあたっての意識調査 ◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題化
2 回	施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』 4. 実習可能施設一覧表 ◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成
3 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 事前準備の話、ビデオ「はじめての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。 2. ボランティアと実習との相違 3. 実習希望先（案）掲示・確認・調整 ◆課題：「開講にあたっての意識調査」
4 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習の意義と目的 2. 実習の段階等 3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A 4. 実習報告会参加についての説明 ◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）
5 回	保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習報告会参加 2. 報告会に参加しての学びをまとめる ◆課題：実習報告会プリントの作成・提出
6 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明 2. ボランティアに関する諸注意 ◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。
7 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習における実習生の心得 1. 『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」 2. 日誌の書き方と記入練習 ◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化
8 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 実習事務訓練 1. 日誌の書き方説明と記入練習 1. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意 3. 手作り玩具（2年生の作品）の作品紹介 ◆春休み課題：実習希望先のボランティア・ボランティア日誌 1. ボランティア（3日間） 2. レポート「ボランティア園の概要・保育所の日・日誌1日分」 3. 手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
9 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出された実習事前レポートについての補足と解説 2. 「実習中の基本的態度と注意事項」 3. 事前オリエンテーションの事前指導 <p>◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。</p>
10 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書式説明 2. 記入の諸注意 3. 参考例による確認 <ul style="list-style-type: none"> ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票）」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 <p>◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。</p>
11 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中勤務時間外の注意事項 2. 日誌の書き方と注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(1) <p>◆課題：一日分の日誌を書く。</p>
12 回	<p>施設実習（以下について理解する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日誌の書き方と注意事項 2. 『実習の手引き』実習生の心得 <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習連絡・注意事項(2) <p>◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。</p>
13 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習記録の書き方『施設実習の手引』第IV章</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の記録 2. 日誌欄について 3. 実習生としての姿勢と責任 4. 人間関係とマナー <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について <p>◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。</p>
14 回	<p>施設実習（以下について理解し、身につける。）</p> <p>施設実習に向けて『実習後のまとめ』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸注意の確認 2. 課題の設定 <p>実習終了後の諸注意（施設）『施設実習の手引き』第V章</p> <p>◆課題：実習後レポートについての説明</p>
15 回	<p>事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。）</p> <p>実習後の事後記録記述</p> <p>◆課題：施設実習事後レポート</p> <p>◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画						
科目名	保育実習指導Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員 大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子
質問受付の方法 (e-mail, オフィスアワー等) : e-mail:ohga @owc. ac. jp、 OH:土曜 2 限						
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に挙げる 5 項目を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力を培う。</p>					
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第 1～4 回 ・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第 5～9 回 ・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画の DVD を用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第 10～13 回 ・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第 14, 15 回 			
予習・復習		講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。				
テキスト		岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』(平成 31 年)、フレーバル館『保育所保育指針』平成 29 年告示				
学習評価の方法	<p>以下の 5 つの学習成果について均等に評価し、合計 100 点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物 ② 保育実践力 ③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び ④ 保育士の専門性と職業倫理の理解 ⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び <p>なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。</p>					
注意事項	<p>※「保育実習指導Ⅱ」は、2 年次前期に開講される。</p> <p>※13 回目までの内容を実習前に実施する必要がある。</p>					

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1 回	<p><保育所実習指導Ⅱオリエンテーション> 教育目標 1</p> <p>1. 保育実習Ⅱの意義と目標 2. 評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：DVD「保育士・幼稚園教諭になるために－保育士の仕事と役割－」を通じて実習のイメージを形成する。 <p>◆課題：「実習生について（個人票）」下書きの説明と記入</p>
2 回	<p><実習の内容について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 <p>◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述</p>
3 回	<p><実習の形態と記録について> 教育目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・演習： 春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 <p>◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入</p>
4 回	<p><保育の理解について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅲ章」 について理解する。 <p>◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)</p>
5 回	<p><保育計画について> 教育目標 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章」 について理解する。 年間指導計画・月指導計画・週指導計画について理解する。 ・演習：日指導計画（日案）の書き方について理解し、まとめて記述する。 <p>◆課題：部分指導事例の通読</p>
6 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育：絵本の読み聞かせの指導を受けて要領を理解する（模擬保育室にて） ・演習：絵本の読み聞かせの演習・その内容の指導案を作成する。 <p>◆課題：演習課題の完成と提出</p>
7 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：3歳未満と3歳以上の日指導計画（日案）の書き方の違いについて理解する。 ・演習：食事（3歳未満と3歳以上）の指導案を作成し、提出する（『保育所実習の手引』参照）。 <p>◆課題：実習で取り組みたい遊び（集団遊び・水遊び・製作など）を考えてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
8 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ：「年齢に応じた遊び（実習予定年齢）」の指導案を作成する（『保育所実習の手引』参照）。 <p>◆課題：演習内容の完成</p>
9 回	<p><指導案作成について> 教育目標 2・3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回提出指導案の返却。解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「指導案の中の8つのエラー探し」をする。 <p>◆課題：「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出</p>
10 回	<p><実習の準備と留意事項> 教育目標 2・3・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第V章」について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 <p>◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出</p>
11 回	<p><保育所保育指針復習①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第1章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習のまとめと評価について> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 第VI章」「保育所実習評価の着眼点」について理解する。 <p>◆課題：保育実習巡指導の依頼</p>
12 回	<p><保育所保育指針復習②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：保育所保育指針 第2章からワークシートを用いてまとめる。 <p><実習書類と諸注意> 教育目標 1・4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：「保育所実習の手引 V実習のまとめ」について理解する。 <p>◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。</p>
13 回	<p><保育実習の直前確認> 教育目標 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。
14 回	<p><保育実習の総括①> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 <p>◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。 課題：実習園へのお礼状送付</p>
15 回	<p><保育実習の総括②> 教育目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決するべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 <p>◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己の課題を明確にする。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画						
科目名	教育課程論及び教育方法 ・技術論	授業回数	15	単位数	2	担当教員 都田修兵・山本婦佐江 原田俊孝・福野裕美
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : stsuda@owc.ac.jp、OH : 土曜日 2 限目						
教育目標と学生の学習成果	<p>本科目では、子どもたち（とくには幼児教育期）に求められる資質や能力を育成するために必要である教育の方法及び技術の基礎的な知識と技能を習得するとともに、ICT などの情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能も習得する。</p> <p>また、幼稚園教育要領などを基準として編成される教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、各園や学校に合わせてカリキュラム・マネジメントを実施することの意義を理解する。</p> <p>学生の学習成果</p> <p>専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。</p> <p>汎用的学習成果：価値観の多様性を理解し、自分なりの意見を持つ姿勢を獲得する。</p>					
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式による。 ・授業時間内外に取り組み課題（保育指導案）を課す。 				
	予習・復習	<p>予習事項 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。</p> <p>復習事項 毎授業回後に復習を求める。</p> <p>※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</p>				
	テキスト	柴田義松編著『教育の方法と技術（改訂版）』学文社、2015（初版 2001）。				
学習評価の方法	<p>以下の学習成果について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教育方法及び技術の基礎的な知識と技能を理解する。 ②ICT などの情報機器に関する基礎的な知識・技能を習得する。 ③保育指導案の作成を通して、教育方法及び技術の具体化や教材の活用に関する知識・技能を習得する。 ④教育課程編成の意義や編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 <p>学習評価は、課題（40 点）及び期末試験（60 点）により実施する。</p> <p>※受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点（1～5 点を目安とする）する。</p>					
注意事項	<p>参考図書</p> <p>師岡章編著『幼児教育の指導法』放送大学教育振興会、2015。</p> <p>中川一史ほか編著『教育のための ICT 活用』放送大学教育振興会、2017。</p> <p>田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。</p>					

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>1 回</p>	<p><オリエンテーション、教育技術とは何か> (都田)</p> <p>○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、本科目が「教育実践の様式と技術を原理的に探求する」ものであることを理解するとともに、「教育技術」がどのような技術かを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・テキスト (pp. 7-29) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、「教育技術」がどのような技術かを理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。</p>
<p>2 回</p>	<p><教育方法の基礎的理論と実践①> (都田)</p> <p>○本時の目標 本時では、教育方法について歴史的視点、とくにはソクラテス法 (産婆術) とコメニウスの教授法、ルソーの教育、ペスタロッチーの開発教授法を中心としながら、その基礎的理論と実践を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 31-35) で解説する。。</p> <p>○本時の学習成果 ソクラテス法 (産婆術) とコメニウスの教授法、ルソーの教育までの教育方法の理論と実践を理解しているとともに、現代の教育方法との関連についても説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、教育方法の理論と実践を歴史的に整理する。</p>
<p>3 回</p>	<p><教育方法の基礎的理解と実践②> (都田)</p> <p>○本時の目標 ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法、世界新教育運動までの多様な教育改革実践を理解しながら、学級や子ども、教員や教材などの現代の教育あるいは保育を構成する基礎的要件についての理解を深める。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 38-49) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 前回の内容と関連させながら、ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法、世界新教育運動までの多様な教育改革実践から学級や子ども、教員や教材などの教育あるいは保育を構成する基礎的要件について説明することができる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：前回とあわせて、現代における教育方法の在り方について整理する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

4 回	<p><現代に求められる教育方法> (都田)</p> <p>○本時の目標 近代日本の学校と教育実践改革を概観しながら、現代の子どもたちに求められている資質・能力と関連づけつつ、今日の日本の教育方法の在り方について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp. 50-56) で解説する。</p> <p>○本時の学習成果 今日の日本の教育方法の在り方について理解している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：自身が受けてきた教育と比較しながら、日本の教育方法について考えてみる。</p>
5 回	<p><教育課程の意義> (福野)</p> <p>○本時の目標 『幼稚園教育要領』などを取り上げながら、その性格や位置づけ、歴史的変遷などを理解することを通して、学校教育における教育課程の社会的な役割・機能・意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp.57-80) 及び授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 幼稚園教育要領の性格、位置付け、改訂の変遷・内容及び社会的背景を理解するとともに、教育課程編成の目的や教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。</p>
6 回	<p><教育課程の編成の方法> (福野)</p> <p>○本時の目標 教育課程編成の基本原則、教育内容を選択・配列する方法を理解するとともに、幼児や園・地域の実態をふまえて教育課程を編成することの重要性を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp.57-80) 及び授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 教育課程編成の基本原則、教育内容を選択・配列する方法、幼児や園・地域の実態をふまえて教育課程を編成することの重要性を説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

7 回	<p><カリキュラム・マネジメント> (福野)</p> <p>○本時の目標 幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解するとともに、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：「カリキュラム・マネジメント」「カリキュラム評価」の意味を調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。</p>
8 回	<p><情報機器とその活用①> (原田)</p> <p>○本時の目標 ICTの環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト (pp.109-123) 及び授業で配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 情報活用能力及びICTについて理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。</p>
9 回	<p><情報機器とその活用②> (原田)</p> <p>○本時の目標 子どもたちの情報活用能力 (情報モラルを含む) を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・配布する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

10 回	<p><教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）①>（山本、都田）</p> <p>○本時の目標 これまでの学習内容を踏まえつつ、『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配付する資料をもとに解説する。</p> <p>○本時の学習成果 『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所及び『幼稚園教育要領』を読んでくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。</p>
11 回	<p><教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）②>（山本、都田）</p> <p>○本時の目標 前回の内容をふり返りつつ、週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な保育展開をもとに理解し、実際に保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な保育展開をもとに説明でき、それらをもとに、実際に保育指導案を作成している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：「保育指導案」について自分なりに調べてくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。</p>
12 回	<p><教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）③>（山本、都田）</p> <p>○本時の目標 日案の作成についてふり返りつつ、目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解をさらに深め、具体的な保育展開の構造を理解するとともに、実際の保育現場において行われている「声かけ」などから、保育を行ううえでの基礎的な技術を獲得する。さらに、それらを実際の保育指導案作成に活用する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 保育指導案についての理解を深めているとともに、保育を行う基礎的な技術を身に付けている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：「保育指導案」の構造について整理し、さらなる理解につなげる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p><教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）④>（山本、都田）</p> <p>○本時の目標 具体的な保育指導案作成を行いながら、目標や内容などの視点、さらには保育を行ううえでの基礎的な技術を身に付けながら、教育あるいは保育の目的に適した指導技術についての理解を深め、それら指導技術の獲得を目指す。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。</p> <p>○本時の学習成果 教育あるいは保育の目的に適した指導技術についての理解を深め、その指導技術を身に付けようと努力している。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：保育指導案作成を通して、具体的な教育の技術や教材の活用について整理する。</p>
14 回	<p><教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）⑤、学習評価の基礎理論>（都田）</p> <p>○本時の目標 「観点別学習状況の評価」や「目標に準拠した評価」あるいは「診断的评价」や「形成的評価」、「総括的评价」などの具体的な評価をもとに、学習評価そのものの基礎的な考え方を理解するとともに、実際の保育指導案における評価について考える。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 129-154）で解説する。</p> <p>○本時の目標 学習評価そのものの基礎的な考え方を理解しているとともに、実際の保育指導案における評価について考えている。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、幼稚園における教育評価について自分なりに考えてみる。</p>
15 回	<p><幼稚園における教育評価、総括>（都田・山本・福野・原田）</p> <p>○本時の目標 幼稚園における教育評価について、『幼稚園教育要領』などをもとに、「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方」について理解し、作成した保育指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。また、本科目についての総括を行う。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（pp. 129-154）及び『幼稚園教育要領』で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。</p> <p>○本時の目標 幼稚園における教育評価について理解し、作成した保育指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。</p> <p>○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。</p>

平成 31 年度 教育 計 画							
科目名	幼児と環境	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : hsuzuki@owc.ac.jp OH: 月曜日 3 限 M409 室							
教育 目 標 と 学 生 の 学 習 成 果	教育目標 幼児期における日常生活は基本的な生活習慣の確立と遊びが中心であり、科学的世界への入り口は小学校以降と考えられている。しかし、日常生活上の活動の中から各教科の学習の基礎となる原理を獲得している。そこで本科目では、幼児が自ら興味や関心をもって環境に主体的に関わり、充実感や満足感を味わうことのできる体験について深く理解し、そのような幼児と環境との関わりを促進させる意図的な関わりに検討を加えていくのに必要な知識・技能を身に付ける。また、人的環境としての保育者の感性を養う。						
	学生の学習成果 専門的学習成果：子どもの発達・成長に重要な「環境」に関する様々な知識・技能及び感性を身に付ける。 汎用的学習成果：自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。						
授 業 の 進 め 方	授業 [講義・ 演習 ・実験・実習] 本科目は、ロールプレイ、ディベート等も積極的に取り入れて科学的な概念について理解していく。また、演習も実施し、知識だけでなく体験を通して理解する。 毎回、授業後に振り返りタイムを設定する。						
教 育 方 法	予習・復習 予習事項：「授業回数別教育内容」に記された内容について予習し授業に臨むこと。 復習事項：講義内容を復習し、要点については理解を深めること。 予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。						
テ キ ス ト	テキスト ・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016年。 その他適宜資料を配布する。						
学 習 評 価 の 方 法	学習評価 学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。 具体的には、受講態度、レポート、定期試験を総合的に評価する。 専門的学習成果：定期試験 (70%) 汎用的学習成果：受講態度 (20%)、レポート (10%) 受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、各授業における当該事態 1 回につき「5 点」を減ずる。但し、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1 回につき 1 点の加点機会をも設ける。						
注 意 事 項	【参考図書】 ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』萌文書林、2013 年 ・市川伸一編『現代認知心理学 5 学習と発達』北大路書房 2010 年 ・福沢周亮監修『保育の心理学—子どもの心身の発達と保育実践—』教育出版 2012 年 ・無藤隆ら編『発達心理学』ミネルヴァ書房 2010 年						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>【オリエンテーション】 本科目の授業計画，学習評価方法等について理解する。</p> <p>【保育と環境】</p> <p>○本時の目標 本科目の計画・評価方法等を理解するとともに、幼児が取り巻く環境と関わり、いかにして科学の世界に入っていくのかを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション ・環境との関わり（テキスト p16～、p29～） ・アサガオの種の取り入れと生命の循環</p> <p>○本時の学習成果 環境との関わり方について説明できる「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れようとする（興味や関心をもって積極的に関わろうとする）」ことによって初めて身近な環境や事象となる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 環境との関わりについて復習する。 (予習事項) 科学とは何か調べてくる。</p>
2 回	<p>【育ちと環境とのかかわり】</p> <p>○本時の目標 幼児を取り巻く環境（物的、人的、社会的、安全等）と、幼児の発達におけるそれぞれの環境の重要性について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・育ちと環境の関わりー（テキスト p20～）</p> <p>○本時の学習成果 発達における環境の重要性について説明できる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 発達と環境について復習する。 (予習事項) テキストの該当箇所を読んでくる。</p>
3 回	<p>【認知的発達の特徴】</p> <p>○本時の目標 乳幼児の認知的発達の特徴について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・認知的発達の特徴（テキスト p 46～）</p> <p>○本時の学習成果 認知的発達について説明できる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 認知的発達について復習する。 (予習事項) テキストの該当箇所を読んでくる。</p>
4 回	<p>【数学者としての子どもー自然との関わり】</p> <p>○本時の目標 数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・どんぐり拾い ・数概念ー論理数学的知能（テキスト p100～、資料）</p> <p>○本時の学習成果 数概念に対する理解の発達について分かる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 数概念の特徴について復習する。 (予習事項) テキストの該当箇所を読んでくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

5 回	<p>【生物学者としての子ども①ー生物・自然との関わり】</p> <p>○本時の目標 生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する(チューリップ、パンジー)。</p> <p>○本時の活動 ・生物概念についてー(テキスト p141～)</p> <p>○本時の学習成果 球根や種からの育て方が分かる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 球根や種からの成長過程について復習する。 (予習事項) テキストの該当箇所を読んでくる。</p>
6 回	<p>生物学者としての子ども②】</p> <p>○本時の目標 生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・「子どもにおける生物概念の発達」(資料) ・芋ほり ・サツマイモ収穫の感想文</p> <p>○本時の学習成果 子どもの生物学的概念に対する発達による違いが分かる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 生物学的概念の特徴について復習する。 (予習事項) 芋の活用方法について調べてくる。</p>
7 回	<p>【生物学者としての子ども③】</p> <p>○本時の目標 図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・落葉・木の実拾い ・植物名調べ</p> <p>○本時の学習成果 ・秋の季節を感じるとともに自然の中にいろんな図形を見つける。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 特徴的な植物について復習する。 (予習事項) 秋に紅葉する校内の樹々について調べてくる。</p>
8 回	<p>【生物学者としての子ども④】</p> <p>○本時の目標 生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。</p> <p>○本時の活動 ・サツマイモのツル⇒なわとび、リース、焼き芋</p> <p>○本時の学習成果 サツマイモの活用方法について分かる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) サツマイモの特徴について復習する。 (予習事項) 準備物を調べて準備する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

9 回	<p>【物理学者としての子ども①】</p> <p>○本時の目標 物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する（スライム）。</p> <p>○本時の活動 ・スライムの原理 ・動くスライムづくり ・発達に応じた対応—「磁石遊び」（資料）</p> <p>○本時の学習成果 幼児の物理概念の特徴について分かる。</p> <p>○予習・復習事項 （復習事項）磁石への興味関・関心度について復習する。 （予習事項）ダイラタンシー現象について調べてくる。</p>
10 回	<p>【物的環境—物理学者としての子ども③】 *ゴミ袋準備</p> <p>○本時の目標 物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について理解する（凧）</p> <p>○本時の活動 ・凧があがる原理 ・廃材を利用した凧作り ・発達に応じた対応</p> <p>○本時の学習成果 ・凧があがる原理が説明でき、発達に応じた興味・関心が分かる。</p> <p>○予習・復習事項 （復習事項）凧あげについて復習する。 （予習事項）凧は、なぜあがるのか調べてくる。</p>
11 回	<p>【社会的環境—情報・施設】</p> <p>○本時の目標 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設をと、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・社会環境と生活—生活に関係が深い情報・施設—（テキスト p43～） ・地域社会の働き—（テキスト p124～） ・ロールプレー「社会的環境の理解へ導く」（テキスト p134）</p> <p>○本時の学習成果 ・社会的環境についてわかる。</p> <p>○予習・復習事項 （復習事項）社会的環境について復習する。 （予習事項）テキストの該当箇所を読んでくる。</p>
12 回	<p>【物的環境—文字・標識に対する感覚】</p> <p>○本時の目標 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を理解する。</p> <p>○本時の活動 ・文字・標識に対する感覚（テキスト p106～） ・演習ワーク「設計図を描いてみよう」（テキスト p116）</p> <p>○本時の学習成果 文字・標識に対する感覚を豊かにするためのかかわり方が分かる。</p> <p>○予習・復習事項 （復習事項）文字・標識に対する興味・関心のもたせ方について復習する。 （予習事項）テキストの該当箇所を読んでくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p>【環境の現代的課題】</p> <p>○本時の目標 ESDなどの幼児を取り巻く環境の現代的課題について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全を確保する「環境」― (テキスト p218～) ・知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育 (ESD) ― (テキスト p16 から) ・ディベート⇒「子どもに積ませたい経験は？」 <p>○本時の学習成果 環境の現代的課題について考えることができる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 現代的課題について振り返る。 (予習事項) テキストの該当箇所を読んでくる。</p>
14 回	<p>【日常的世界観から科学的世界観へ】</p> <p>○本時の目標 素朴概念が科学的概念の学習を阻害する要因になることを理解し、その橋渡しを促進させるための保育の関わりについて理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む (「科学的思考を育む視点」「支援の方法」)。 <p>○本時の学習成果 科学的概念へと促進させる関わりについて分かる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 素朴概念から科学的概念への橋渡しについて復習する。 (予習事項) 素朴概念とは何か調べてくる。</p>
15 回	<p>【まとめ一人的環境としての保育者】</p> <p>○本時の目標 幼児の生活における活動は科学的知識の基礎の獲得と意味づけし、保育者としてどう支援していけば科学的思考が育つのか理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の振り返り <p>○本時の学習成果 環境へのかかわり方について振り返り、まとめる。</p> <p>○予習・復習事項 (復習事項) 日常生活における活動に対する捉え方や支援方法について復習する。 (予習事項) 今までの学習内容を振り返る。</p>

平成31年度教育計画								
科目名	「幼児と環境」の指導法		授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木 久子
質問受付の方法 (e-mail、オフィスアワー) : hsuzuki@owc.ac.jp OH: 月曜日3限 M409室								
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標</p> <p>保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、このねらいを達成するための領域「環境」のねらい及び内容について、実際に五感を通して理解を深め、幼児の発達に即して、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、主体的・対話的な深い学び目指した領域「環境」の具体的な保育を構想する方法を身に付けることを目標とする。</p> <p>学生の学習成果</p> <p><専門的学習成果></p> <p>身近な環境・自然・地域の様々な事象に関心を持ち、好奇心や探求心を育む活動内容について幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。</p> <p>物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする活動内容を、幼児の発達や学びの過程を理解し、計画・実践する手法を身に付ける。</p> <p>栽培活動を通して生命の尊さに気づき、責任ある行動を育む保育活動の計画・実践に係る手法を身に付ける。</p> <p>野外・園外活動等における安全管理に係る基本的な知識・方法を身に付ける。</p> <p>幼稚園要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、「環境」のねらい及び内容について理解する。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し、自らがよりよい環境になるよう努める態度を養う。</p>							
	教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲーム等の演習を行い、その活用方法を理解し具体的な保育構想にまとめる。 ・植物を栽培しその観察記録をノートにまとめる。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定(シャトルカードに記入)する。 					
予習・復習		<p>予習事項:「授業回数別内容」に記された内容について参考図書などから収集し、授業に臨むこと。</p> <p>復習事項:保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して授業内容をノートにまとめること。予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。</p>						
テキスト		<ul style="list-style-type: none"> ・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ保育内容 領域 環境』萌文書林、2013年 <p>*授業用に冊子ノートを準備し、毎回、まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜、求められた日に点検を受ける。</p>						
学習評価の方法	<p><専門的学習成果></p> <p>以下の学習成果について評価する。</p> <p>期末テスト</p> <p>① 保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいと内容に関する理解について。</p> <p>② 領域「環境」に関する具体的な演習内容、配慮事項と保育構想方法の理解について。</p> <p>③ 安全管理に関する基本的理解について。</p> <p>授業中の小テスト</p> <p>自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲーム等に関する基本的理解について、授業中の小テ</p>							

	<p>ト（保育構想）で測る。</p> <p><汎用的学習成果></p> <p>植物栽培の観察記録を含めた演習活動記録ノートの提出状況や内容、授業中の態度や演習の取り組み状況などから評価する。</p> <p>受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について、複数回の注意後も改善がみられない場合、各授業における当該事態1回につき「5点」を減ずる。但し、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、1回につき1点の加点の機会をも設ける。</p> <p>評価配分：<専門的学習評価>期末テスト（60点）、小テスト（10点）</p> <p><汎用的学習評価>ノート（10点）、観察記録（10点）、演習取り組み（10点）</p> <p>合計100点満点で最終評価とする。</p>
注意事項	<p>【参考図書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館、2013年 ・内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド社、2015年 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社、2015年 ・田宮緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』萌文書林、2011年 ・『「そだててあそぼう 3」 サツマイモの絵本』農山漁村文化協会、2001年 ・田尻由美子・武藤隆編『子どもと環境—基本と実践事例—』、同人書院、2011年 ・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016年。その他適宜資料を配布する。
授 業 回 数 別 教 育 内 容	
1回	<p><オリエンテーション><環境とは、保育者の役割とは></p> <p>○本時の目標</p> <p>本科目の概要について知り成績評価方法、授業計画等について確認するとともに、「環境」のねらいや内容について理解する。さらに、保育現場における「環境」、「保育者の」役割について理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション <p>本科目のねらい、授業計画、学習評価方法について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境とは、保育者の役割とは」（p35～）、領域「環境」のねらいや内容について（p29～）テキストで学ぶ。 <p>○本時の学習成果</p> <p>領域「環境」の概要について知り、そのねらいや内容を理解するとともに、子どもを取り巻く環境、保育者の役割について説明できる。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>復習事項：子どもを取り巻く環境について説明でき、「環境」のねらいや内容が言える。</p> <p>予習事項：子どもにとっての環境とは何か調べてくる。</p>
2回	<p><自然を用いた遊び①></p> <p>○本時の目標</p> <p>「目隠しイモ虫」になり探検する演習を通して、自然と触れ合い豊かな感性を育む活動の援助と配慮事項を理解し、保育構想の重要性を知る。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、植物や生き物に触れる体験（テキスト P50～、p46～）一目隠しイモ虫の演習と気づき ・保育構想の必要性 <p>○本時の学習成果</p> <p>「目隠しイモ虫」になり五感を通して自然を感じる体験から配慮事項や援助方法を踏まえた保育構想が必要であることを知る。</p> <p>○予習及び復習事項</p> <p>復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。</p> <p>予習事項：自分の周りの自然を見直してくる。＊目隠しの準備</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>3 回</p>	<p><自然を用いた遊び②> ○本時の目標 自然の中から似た図形を探し情報機器による調査をする活動を通して、数量や図形を活用して好奇心や探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解し指導案を作成する。 ○本時の活動 ・自然の中から似た図形を探し出す活動（テキスト p 101p～） ・春の葉っぱの擦り出しや情報機器による葉っぱ調べ ・指導案の作成。 ○本時の学習成果 情報機器により葉っぱ調べを行い、数量や図形を活用して好奇心や探求心を育む活動の援助や配慮事項を体験から見出し、指導案が作成できる。 ○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：子どもにとっての身近な自然について調べてくる。*畑を耕す服装</p>
<p>4 回</p>	<p><保育活動における安全管理> ○本時の目標 危険予知トレーニングの演習の仕方を知り、グループ学習により野外活動時等における安全管理の仕方を身に付ける。 ○本時の活 ・危険予知トレーニング演習 ・安全管理 ○本時の学習成果 危険予知トレーニングの演習を行い、野外活動時等における安全管理の仕方が分かる。 ○予習及び復習事 復習事項：時期・場所別による危険予知トレーニングを行うことを復習とする。 予習事項：子どもにとって環境を構成する要素とは何か調べてくる。</p>
<p>5 回</p>	<p><春のキャンパスマップ> ○本時の目標 季節により自然や人間の生活に変化があることに気づくことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し指導案を作成する。 ○本時の活動 ・春のキャンパスマップづくり（テキスト P55～） ・指導案の作成 ○本時の学習成果 春のキャンパスマップ作りを体験し、実践に向けての指導案を作成することができる。 ○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：キャンパスに潜む危険を子どもの視点で考えてくる。*色鉛筆の準備</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>6 回</p>	<p><科学遊び①> ○本時の目標 風車を作り、それを使った遊びの演習を通して、身近な物や遊具に興味をもって関わり、好奇心や探求心を育む科学的遊びの援助と配慮事項を理解し指導案を作成する。さらに評価のやり方を理解し、模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付けるようにする。 ○本時の活動 ・風車づくり(テキスト p86～) ・指導案の作成、振り返り・改善 ○本時の学習成果 風車作りを体験し、実践に向けての指導案を作成する。さらに振り返り、指導案を修正することができる。 ○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：なぜ風車は回るのかを考えてくる。</p>
<p>7 回</p>	<p><科学遊び②> ○本時の目標 身近な石鹼を用いたシャボン玉演習を通して、子どもの好奇心探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解し、指導案を作成する。 ○本時の活動 ・シャボン玉遊び (テキスト p86～) ・指導案作成 ○本時の学習成果 シャボン玉遊びの活動から援助と配慮事項を知り指導案が作成できる。 ○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：子どもの視点で活動に潜む危険やねらいを達成するための工夫を考えてくる。</p>
<p>8 回</p>	<p><飼育と栽培> ○本時の目標 サツマイモについてのルーツや栄養価、栽培方法、植え方、世話や観察の仕方について理解し、サツマイモとアサガオの植え付けを行う。観察記録を通して、身近な動植物に親しみをもって接し生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする心を育む活動の援助と配慮事項を理解できる。 ○本時の活動 ・サツマイモについての理解 ・サツマイモとアサガオの植え付け ・「環境」と「生活科」のつながり ○本時の学習成果 アサガオとサツマイモの植え付けをする。その後も生命を育てていこうとする心構えをもつことができる。 ○予習及び復習事項 復習事項：今後、成長過程を観察・記録することを復習とする。 予習事項：サツマイモの栽培方法について調べてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>9 回</p>	<p><乳幼児期における自然体験></p> <p>○本時の目標 年齢・発達に沿った自然（太陽・水・空気・風など）との関わり方・保育活動への活用方法について理解し、指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・自然との関わりにおける保育活動について想起しまとめる</p> <p>○本時の学習成果 自然（太陽・水・空気・風など）それぞれの保育活動への活用方法について想起しまとめることができる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：乳幼児期の発達に応じた自然の中での保育活動について考えてくる。</p>
<p>10 回</p>	<p><生活遊び①></p> <p>○本時の目標 身の回りにある廃材などの素材を利用した廃材のアート(羽子板)の演習を通して、身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。さらに評価のやり方を理解し、模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付けるようにする。</p> <p>○本時の活動 ・羽子板づくり（テキスト p85～） ・指導案作成、振り返り・改善</p> <p>○本時の学習成果 廃材のアート(羽子板)の演習を通して、身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し指導案が作成できる。さらに振り返り、修正することができる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：身の回りの廃材で素材になる牛乳 1ℓ パックを 1 つ準備する。</p>
<p>11 回</p>	<p><生活遊び②></p> <p>○本時の目標 数字のサイコロやすごろくを作成して遊ぶ演習を通して、日常生活における数量や図形など親しむことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解し指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動 ・さいころとすごろくづくり（テキスト p112～） ・指導案の作成</p> <p>○本時の学習成果 数量や図形などに親しむことを目的にした活動の援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：身の回りの物を用いたスタンプ遊びについて調べてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

12 回	<p><室内ゲーム①></p> <p>○本時の目標 動物あてゲームや動物しりとりを通して、さまざまな生き物の生態や生活に関係の深い施設について興味・関心をもつ活動の援助と配慮事項を理解し、指導案を作成する</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物あてゲームや動物しりとり（テキスト p127～,p145～） ・指導案作成 <p>○本時の学習成果 ゲーム体験を通しての援助や配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：室内でできる動物に関する環境ゲームについて考えてくる。</p>
13 回	<p><室内ゲーム②></p> <p>○本時の目標 昔遊び(しりとりや数の童歌)の演習を通して、日本の伝統文化（お正月行事）や国旗にふれるとともに、日常生活における必要感に基づく数量感覚を養う活動の援助と配慮事項を理解し、指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔遊びや伝統文化（テキスト p145～、 p 101～）－ P Cによる情報機器の活用 ・国旗 ・指導案作成 <p>○本時の学習成果 情報機器を活用して調べた伝統文化や国旗、昔遊びによる活動の援助や配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：地域に残る童歌や遊びについて調べてくる。</p>
14 回	<p><科学遊び③></p> <p>○本時の目標 色水遊びや押し花の演習を通して、自然の身近な事象に関心をもち、取り入れた科学的遊びの援助と配慮事項を理解し、指導案を作成する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境」と小学校での「生活科」とのつながり ・色水遊びや押し花の演習 ・指導案作成 <p>○本時の学習成果 色水遊びや押し花の演習の科学的遊びの援助と配慮事項を理解し、指導案が作成できる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめて提出する。 予習事項：どんな植物で色水遊びをしたらよく染まるのかを調べてくる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

15 回	<p><幼児における環境教育></p> <p>○本時の目標 現代的課題や保育実践の動向を知り，子どもが自ら取り組む豊かな環境の設定と保育者としての役割や心構えについて，理解を深めることができ、「環境」のねらいと内容について振り返ることができる。</p> <p>○本時の活動 ・「環境」のねらいと内容 ・現代的課題や保育者の役割（テキスト p173～）</p> <p>○本時の学習成果 「環境」のねらいや内容について総まとめをするとともに現代的課題や保育者としての役割について理解することができる。</p> <p>○予習及び復習事項 復習事項：豊かな環境と保育者の役割について復習する。 予習事項： 演習内容と指針のねらいや内容との関連について調べてくる。</p>
---------	---

平成 31 年 度 教 育 計 画							
科目名	幼児と言葉	授業回数	15	単位数	1	担当教員	浦上 博文
質問受付の方法： B 4 0 4 授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の5点を教育目標とする。</p> <p>①人間にとっての言葉の役割を理解する。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する。 ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる5点に関する知識を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標①・②・③について。テキストに沿って講義を行う。 ・教育目標④・⑤については、実演を行いつつテキスト・補助資料に沿って講義を行う。また、受講生が模擬実践を行う。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 					
	テキスト	<p>岡田明編『新訂子どもと言葉』萌文書林、2008年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。 					
学習評価の方法	<p>以下の6点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②+③：④+⑤：⑥＝60：25：15」とする。</p> <p>①人間にとっての言葉の役割を理解する（期末試験）。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する（期末試験）。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する（期末試験）。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する（課題） ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する（課題）。 ⑥態度・信念を身に付ける。</p> <p>態度・信念の評価は、全授業を通してシャトルカードにより行う（1回分1点、記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（1件1点）。</p>						
注意事項	<p>参考図書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡本夏木『子どもとことば』岩波新書、2003年。 						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>1 回</p>	<p>○本時の目標 ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割について理解する（前半）。 ○本時の活動 ・オリエンテーション ・テキスト（p.2～10の前半）を解説する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割を説明できる。 予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読する。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>2 回</p>	<p>○本時の目標 ・人間生活における言葉の役割について理解する（後半）。 ○本時の活動 ・テキスト（p.2～10の後半）を解説する。 ○本時の学習成果 ・人間生活における言葉の役割を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>3 回</p>	<p>○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴（クーイング・喃語・初語・一語文等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.11～14）を解説する。 ○本時の学習成果 ・誕生から1歳前後までの言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>4 回</p>	<p>○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、1歳半から3歳のころまでの言葉の発達と特徴（二語発話・幼児語・幼児音等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.14～19）を解説する。 ○本時の学習成果 ・1歳半から3歳のころまでの言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>5 回</p>	<p>○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、4歳以降の言葉の発達と特徴（多様な品詞の使用・文字への関心等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.19～23）を解説する。 ○本時の学習成果 ・4歳以降の言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

6 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」に関する復習テスト ・テキスト（p.28～36）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習テストにより知識の修得状況を認識できる。 ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方を説明できる。 <p>予習：復習テストに向けた学習をする。テキストの該当箇所を通読する。 復習：復習テストの間違いを確認する。テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
7 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.23～27 p.53～60）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
8 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.68～103）を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
9 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、絵本の読み聞かせに関する知識（発達段階に応じた選書・読み聞かせの方法等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.107～111）・補助資料を解説する（実演を含む）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせの仕方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
10 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、紙芝居等に関する知識（舞台の使用法・演じ方等）を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.111～122）・補助資料を解説する（実演を含む）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の演じ方について説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

11 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第9・10回の授業で学んだ知識を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（1回目）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。</p>
12 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第9・10回の授業で学んだ技能を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（2回目）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 <p>予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。</p> <p>復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。</p>
13 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例を知るとともに、言葉遊びの基礎的な知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助資料によって、幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例、言葉遊びの基礎的な知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例と、言葉遊びの基礎的な知識を説明できる。 <p>予習：補助資料を通読する。</p> <p>復習：補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
14 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児、3歳児、4歳児、5歳児向けの言葉遊びを体験し、言葉の発達と言葉遊びとの関連を考察する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を説明できる。 <p>予習：補助資料を通読する。</p> <p>復習：言葉遊びの体験と考察から得た学習内容を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

15 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス・テキスト・補助資料・ノートによってこれまでの授業を振り返り、自己課題を考察する。 ・ 期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノートによって、これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。</p>
---------	--

平成31年度教育計画								
科目名	「幼児と言葉」の指導法		授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上 博文
質問受付の方法： B404授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp								
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の7点を教育目標とする。</p> <p>①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容、評価の在り方を理解する。 ②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する。 ③保育者としての言葉の在り方を理解する。 ④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害のある幼児への支援）を理解する。 ⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。 ⑥児童文化財の活用法を修得する。 ⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する。</p> <p>学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる7点に関する知識及び技能を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。</p>							
教育方法	授業の進め方	<p>（講義・演習・実験・実習・実技）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標①・②・③・④・⑤：テキストに沿って講義をする。 ・目標⑥：児童文化財を通しての援助については、実物・実演等によって説明する。受講者全員が絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う（個人）。 ・目標⑦について。受講者全員が言葉遊びの模擬実践を行う（グループ）。 						
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 						
	テキスト	<p>田上貞一郎・高荒正子著『新訂保育内容「言葉」』萌文書林、2016年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。 						
学習評価の方法	<p>以下の5点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①+②+③+④：⑤+⑥+⑦：⑧=50：35：15」とする。</p> <p>①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容を理解する（期末試験）。 ②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する（期末試験）。 ③保育者としての言葉の在り方を理解する（期末試験）。 ④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害を持つ幼児への支援）を理解する（期末試験）。 ⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する（課題）。 ⑥児童文化財の活用法を修得する（課題）。 ⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する（課題）。 ⑧態度・信念を身に付ける。</p> <p>態度・信念の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う（記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（1件1点）。</p>							
注意事項	<p>参考図書等 適宜、授業内において示す。</p>							

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>1 回</p>	<p>○本時の目標 ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・オリエンテーション ・テキスト（p.10～22）を解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方を説明できる。</p> <p>予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読する。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>2 回</p>	<p>○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（p.22～44）をもとに、乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について解説する。 ・乳幼児の言葉の発達に関する映像資料を視聴する。</p> <p>○本時の学習成果 ・乳幼児の言葉の発達、言語障害のある幼児への支援について説明できる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：映像資料を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>3 回</p>	<p>○本時の目標 ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方を理解する。 ・小学校教育とのつながりを理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（p.155～166）をもとに、幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明する。 ・文字遊びを体験し、幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について考察する。</p> <p>○本時の学習成果 ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明できる。 ・幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について説明できる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：文字遊び体験を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
<p>4 回</p>	<p>○本時の目標 ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・テキスト（p.45～68）をもとに、領域「言葉」の指導計画立案の方法を解説する。</p> <p>○本時の学習成果 ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について説明できる。</p> <p>予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

5 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに関する知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (p.74～92)・補助資料をもとに、実演を行いつつ絵本の読み聞かせに関する知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに関する知識を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
6 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト (p.93～107)・補助資料をもとに、実演を行いつつ紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を解説する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。</p>
7 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の講義で学んだ絵本の読み聞かせに関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回の講義で学んだ技知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。読み聞かせの練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。</p>
8 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の模擬実践によって、読み聞かせに関する技能を向上させる。 ・2回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、絵本の読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善点を活かして、読み聞かせの模擬実践ができる。 ・2回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 <p>予習：改善点を意識して読み聞かせの練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

9 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回の講義で学んだ紙芝居に関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回の講義で学んだ知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。紙芝居の練習をする。</p> <p>復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。</p>
10 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目の模擬実践によって、紙芝居に関する技能を向上させる。 ・2回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善点を活かして、紙芝居の模擬実践ができる。 ・2回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 <p>予習：改善点を意識して紙芝居の練習をする。</p> <p>復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。</p>
11 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する知識を理解する。 ・言葉遊びの指導案作成方法を理解する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（p.70～74）・補助資料をもと、言葉遊びに関する知識を解説する。 ・指導案作成の方法を解説する。 ・模擬実践のグループに分かれる（1グループ5名程度） ・各グループで、選択した言葉遊びに関する指導案を作成する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びに関する知識を説明できる。 ・言葉遊びの指導案を作成できる。 <p>予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。</p> <p>復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。指導案を確認する。</p>
12 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践の準備を行う。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って使用する教材を整え、リハーサルを行う。 ・第13・14回で実践するグループの順番を決める。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの指導案を説明できる。 ・模擬実践のリハーサルができる。 <p>予習：指導案の内容を確認し、準備する教材を確認する。</p> <p>復習：模擬実践の流れを確認し、教材を点検する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を行う（前半グループ）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 <p>予習：指導案に内容と準備した教材を確認する（前半グループ）。</p> <p>復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（前半グループ個人）。</p>
14 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を行う（後半グループ）。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 <p>予習：指導案を確認し、準備する教材を確認する（後半グループ）。</p> <p>復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（後半グループ個人）。</p>
15 回	<p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びの模擬実践を振り返り、成果と改善点を明らかにする（グループ）。 ・これまでの授業を振り返り、幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス・テキスト・補助資料・指導案等によって、自己課題を考察する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 ・幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 <p>予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノート・指導案等によって、これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。</p>

平成31年度教育計画							
科目名	幼児と表現Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付の方法： E棟 105 研究室 金曜日 12:20~12:50 e-mail: sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助ができるための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解する。 2. 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を知る。 3. 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する視点を学ぶ。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題の保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容とする。 ④ 課題を通して学んだことを文章・イラスト・写真等で記録する。 ⑤ 課題ごとに自己評価を行い反省と課題を記す。 ⑥ 予習・復習と宿題について教員が説明する。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアター並びにペープサートでは、絵本や保育者向けの図書を参考に制作の構想を練ったり、上演の練習をしたりする。 ・課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・必要に応じて記録写真を撮り、自己評価と記録を忘れないうちにまとめる。 					
	テキスト	『保育園・幼稚園の造形あそび』 鮫島良一 馬場千晶／著、成美堂出版					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解した。 ② 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴、幼児が扱うときの諸注意を習得した。 ③ 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する能力視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる。 						
注意事項	オペレッタの上演時期に合わせ、第12回・13回の内容が前後することがある。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>〈オリエンテーション：幼児と造形表現〉</p> <p>○本時の目標 幼児教育における造形表現の位置づけについて、授業の進め方および評価について、受講の注意等について理解する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの説明 ・幼児による実際の作品を鑑賞する。 ・児童画の発達過程について知る。 <p>○本時の学習成果：授業を受ける意味を学ぶとともに、造形を指導する保育者として求められる日常的な心がけ、視点について理解する。</p> <p>○予習と復習：自分の幼少期の作品を探す、記憶を辿る等を通し、授業内容の確認をする。</p>
2 回	<p>〈描画材 ①クレヨン・ペン・丸シール〉</p> <p>○本時の目標 乳児期（0歳～2歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレヨンやペンの特徴と、幼児が使用する際の注意点を、実際に使いながら確認する。 ・事務用丸シールを活用した表現を確認する。 <p>○本時の学習成果：乳児期（0歳～2歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。</p> <p>○予習と復習：教科書14頁～21頁を読んで本時の復習をしておく。</p>
3 回	<p>〈描画材 ②水彩絵の具〉</p> <p>○本時の目標 発達段階にあわせた水彩絵の具や用具、環境設定について理解する。 水彩絵の具を使ったモダンテクニックによる表現を演習を通して確認する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具の特徴と留意点を教員が説明をする。 ・発達段階に合わせた活動例を確認し、モダンテクニック（デカルコマニー・スパッタリング・吹き流し・はじき）による演習を行う。 <p>○本時の学習効果：水彩絵の具の特徴を知り、それを活かした表現（はじき、吹き流し、混色など）と場の設定、援助のポイントを習得する。</p> <p>○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。</p>
4 回	<p>〈幼児の育ちと造形表現〉</p> <p>○本時の目標 「保育所保育指針」等の表現に関する抜粋プリントと、小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を理解する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書12頁～13頁を読み、子供の成長の流れを大きくつかむ。 ・「幼児の育ちと造形表現のまとめ」のビデオを観る。 ・ビデオをみながらプリントに本時の学びや気づきをまとめる。 <p>○本時の学習成果：子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を理解する。子どもの造形表現と関わる保育者のあり方について考えることができる。</p> <p>○予習と復習：配布プリントを熟読しておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

5 回	<p>〈ペープサート〉</p> <p>○本時の目標 ペープサートの歴史とその魅力、幼児とのコミュニケーション手段として保育における役割について理解する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による試演や説明から、ペープサートについて理解する。 ・ 素材と製作方法について教員が説明をする。 ・ シルエット遊び「これな〜んだ」を説明、割りばしと画用紙を使って紙人形を制作する。 <p>○本時の学習成果：ペープサートの保育における役割を理解し、工夫して自作できる。</p> <p>○予習と復習：課題を完成させる。</p>
6 回	<p>〈パネルシアター①〉</p> <p>○本時の目標 パネルシアターの歴史とその魅力を理解し、自分達が上演する演目を考えることができる。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネルシアターの歴史と仕組みを教員が説明する。 ・ パネルシアターの DVD を視聴する。 ・ グループに分かれ、図書室で上演演目を検討する。 <p>○本時の学習成果：パネルシアターの歴史とその魅力を理解し、自分達が上演する演目を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：次回までに上演演目を決め、資料となる本を準備しておく。</p>
7 回	<p>〈パネルシアター②〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネルシアター上演に向けグループ内での役割分担を決める。 ・ 台本を作成し、それぞれの場面のアイデアスケッチをする。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内での役割分担を決める。 ・ 場面展開を考え、場面ごとにアイデアスケッチをする。 ・ 必要な人形や小道具を把握する。 <p>○本時の学習成果：パネルシアター制作に必要な材料を把握し、役割分担を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：場面ごとのアイデアスケッチを完成させておく。</p>
8 回	<p>〈パネルシアター③〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵人形や小道具の制作に入ることができる。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵人形や小道具の下絵を作り、パネルシアター用不織布に写しとる。 ・ 油性ペンで縁取りをしたあと、絵の具で着色する。 <p>○本時の学習成果：絵人形や小道具の制作に入ることができる。</p> <p>○予習と復習：絵人形や小道具の制作を進めておく。</p>
9 回	<p>〈パネルシアター④〉</p> <p>○本時の目標 絵人形や小道具を仕上げ、背景の制作に入ることができる。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の制作の続きを行う。 ・ 完成した班から背景の上に人形を並べ、遠くから見ても明瞭な作品になるよう加筆修正していく。 <p>○本時の学習成果：絵人形や小道具を仕上げ、背景の制作に入ることができる。</p> <p>○予習と復習：小道具や背景を各自で完成させておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

10 回	<p>〈パネルシアター⑤〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵人形や背景を完成させ、各グループで上演練習をする。 ・内容が伝わりやすい作品となるよう適宜作品や台詞の加筆修正できる。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵人形などが完成した班から上演練習を行う。 ・全員が参加できるよう役割を分担する。 ・遠くから見ても伝わるか、各グループでチェック、必要に応じて加筆修正や台詞の変更を行う。 <p>○本時の学習成果：内容が伝わりやすい作品となるよう適宜作品や台詞の加筆修正できる。</p> <p>○予習と復習：次回上演ができるよう、各グループで練習をしておく。</p>
11 回	<p>〈パネルシアター⑥〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアターの上演を通し、演者としての視点、鑑賞者としての視点でこれまでの取り組みを振り返り、気付いたことをまとめることができる。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに上演をする。上演を終えたら演者は感想や気付きをワークシートに記入する。 ・鑑賞者は「絵人形・小道具」「パネルシアターの見やすさ」「上演の仕方」「そのほか良かった点」について評価をする。 ・パネルシアターの取り組み全体のまとめをする。 <p>○本時の学習成果：パネルシアターを人前で演じることを経験し、自己課題が確認できる。パネルシアターの上演を鑑賞し、様々な観点で評価をすることができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシートを完成させる。</p>
12 回	<p>〈オペレッタ大道具、小道具、衣装制作①〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>オペレッタに必要な大道具や衣装を制作することを通じて、様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペレッタのグループに分かれ、大道具・小道具・衣装制作の役割分担を決める。 ・それぞれ必要な材料を検討し、購入依頼書を提出する。 ・制作物のアイデアスケッチを練る。 <p>○本時の学習成果：オペレッタに必要な大道具や衣装を制作することを通じて様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。</p> <p>○予習と復習：オペレッタの内容の進み具合に合わせ時間外でも作業をするとともに、大道や衣装等に必要な特殊な材料を調達する。</p>
13 回	<p>〈オペレッタ大道具・小道具・衣装制作②〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。大きな制作物の協同作業を経験する。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自制作を進める。 <p>○本時の学習成果：制作することを通じて様々な材料の処理や道具の使い方、制作物の構造や強度について考えることを習得する。大きな制作物の協同作業を経験する。</p> <p>○予習と復習：空いた時間を使って大道具・衣装などを完成させる。(道具・材料等については教員に相談する)</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>14 回</p>	<p>〈季節をあらわす壁面構成〉</p> <p>○本時の目標 保育室を楽しく彩る壁面構成の役割について理解し、季節感のある壁面構成のアイデアスケッチをすることができる。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面構成の役割について図版資料等を用いて教員が説明する。 ・担当月の壁面構成のアイデアスケッチをする。 ・壁面構成で使用する材料の構想も練る。 ・色鉛筆やクーピーで着彩して完成。 <p>○本時の学習成果：保育室を楽しく彩る壁面構成の役割について理解し、季節感のある壁面構成のアイデアスケッチをすることができる。</p> <p>○予習と復習：作品を完成させておく。</p>
<p>15 回</p>	<p>〈ビデオ視聴：子どもとアート〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとアートに関する2本のDVDを視聴、それらを通して子どもとアートを巡る今日的な課題について考察する。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD『こどもこそ未来（書籍：子どもとアート付録）』『ウワサの保護者会（NHK番組録画）』を比較視聴。 ・2本のDVDを「子どもの様子」「保育者の様子」「保護者の様子」に着目し、気付いたことをワークシートにまとめる。 <p>○本時の学習成果：DVDの比較視聴を通し、保育者として子どもの造形活動とどう関わり、保護者にどのように子どもの様子を伝えていくか、自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシートを完成させる。未提出の課題があれば完成させておく。</p>

平成31年度教育計画

科目名	「幼児と表現Ⅱ」の指導法	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付の方法： E棟 105 研究室		金曜日 12:20~12:50		e-mail: sekinotomoko@gmail.com			
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助をするための知識と基礎技術の習得を目指す。</p> <p>1. 幼児の造形活動に対し適切な評価を行い、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得する。 2. 造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 3. 造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学ぶ。</p> <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し、②幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。</p>						
	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <p>①保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ②課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③準備と片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ④解説、計画、製作等を通して学んだことを文章、イラスト、写真等で記録する。 ⑤予習、復習等について教員が説明する。</p>					
教育方法	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・必要に応じて写真を撮り、記録をまとめる。 					
教育方法	テキスト	『保育園・幼稚園の造形あそび』 鮫島良一 馬場千晶／著，成美堂出版					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <p>①幼児の造形活動に対する知識を身に付け、他領域との関連性・小学校の教科などとのつながりを理解した上で、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得した。 ②造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 ③造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学んだ。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ。</p>						
注意事項	特になし。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>〈オリエンテーション〉 〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の教育目標、授業の進め方及び評価などについて理解する。 ・子どもの造形活動を絡めた壁面構成についてイメージできる。 <p>○本時の活動</p> <p>〈これまでの活動の振り返り：「幼児と表現Ⅱ」から「幼児と表現Ⅱ」の指導法へ〉</p> <p>「幼児と表現Ⅱ」では、各種表現技法も織り交ぜながら主に平面的な造形活動を軸に幼児と表現について学習をしたことを振り返る。本科目では平面から立体・空間・地域・コミュニケーションへと表現を広げながら発達過程に配慮した指導案作成や、他領域との関連性、小学校以降の教科とのつながりについて考えていくことを説明する。</p> <p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育室で保育室と壁面構成について、教員が説明する。 ・模擬保育室の壁面構成の要素について、教員が説明する。 <p>→子どもの制作物による構成を念頭におくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに担当となった月の壁面構成の内容を相談して計画を立てる。 <p>→第4回目の授業内に計画完成を目標に進めることを告げる。</p> <p>○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。保育室の状況と壁面構成を具体的にイメージできる。</p> <p>○予習と復習：季節の造形遊びについて調べておく。</p>
2 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成② 季節の造形活動を考える〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>季節の行事も念頭に置きながら造形活動を考え、壁面構成へとつなげていく計画を立てることで、子どもの生活や意識の流れを大切にしながら活動を組み立てていく視点を持つことができる。</p> <p>○本時の活動</p> <p>壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を重ねてアイデアを練っていく。</p> <p>○本時の学習成果：子どもの生活や意識の流れを大切にしながら造形活動を組み立てていく視点をもつことができる。</p> <p>○予習と復習：次回指導案を完成できるように活動の内容を決めておく。</p>
3 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成③ 指導案を作成する〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>壁面構成へとつながる、造形活動の指導案を作成することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の指導案の様々な作成例を知る。 ・造形活動の指導案を作成する。 ・別紙にて子どもの作品を活かした壁面構成の案も作成する。 <p>○本時の学習成果：造形活動の指導案を作成することができる。</p> <p>○予習と復習：完成できなかったグループは週末までに提出する。壁面構成に使用できる身近な素材を集めておく。</p>
4 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成④ 制作（1）〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>指導案を完成させ、子どもの発達段階を考慮しながら、壁面構成へとつながる制作を進めることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を清書する。 ・壁面構成のための制作をする。 <p>○本時の学習効果：指導案を完成させ、子どもの発達段階を考慮しながら壁面構成へとつながる制作を進めることができる。</p> <p>○予習と復習：制作が遅れている場合は、空き時間を利用して進めておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容	
5 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑤ 制作（2）〉</p> <p>○本時の目標 壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作を完了させる。 ・模擬保育室への設置に向け準備を進める。 <p>○本時の学習成果：壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。</p> <p>○予習と復習：壁面構成に向け、必要な材料の調達を確認し、不足しているものは調達する。</p>
6 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑥ 設置〉</p> <p>○本時の目標 制作物を活かした壁面構成をすることができ、活動を通して学んだことをまとめることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育室への設置を行う。 ・活動全体を振り返りプリントにまとめる。 <p>○本時の学習成果：壁面構成を完成させると共に、活動全体の振り返りを行うことができる。</p> <p>○予習と復習：活動の振り返りプリントを次回までに完成させる。</p>
7 回	<p>〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑦ 相互鑑賞〉</p> <p>○本時の目標 全グループの指導案を確認しながら、模擬保育室の壁面構成を相互鑑賞し、それぞれの良さや工夫点、改善点などに着目して評価をすることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全グループの指導案と壁面構成計画を印刷した冊子を参照しながら、模擬保育室にて相互鑑賞をし、担当グループについて制作物から壁面構成までワークシートに沿って評価をしていく。 <p>○本時の学習成果：相互鑑賞を通して保育を改善する視点をもつことができるとともに、幼稚園教育における指導上の留意点、評価の考え方に基づいて、活動を評価することができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシートを完成させておく。</p>
8 回	<p>〈造形遊びの指導案 1. 幼児の発達と造形遊びの援助〉</p> <p>○本時の目標 幼稚園教育要領における表現の内容と、就学以後の図画工作ならびに美術の指導要領を比較し、表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について、小学校以降の教科との関連のなかで理解することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を確認する。 ・乳幼児の造形表現について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から確認する。 ・同じテーマの題材も発達過程により造形遊びでの「子どもの姿」「ねらい」がかわってくることをサンプルを通して確認する。 ・前回提出したワークシートを、本時の学びの観点で加筆修正し、完成させる。 <p>○本時の学習成果：小学校以降の教科との関連のなかで表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について考えることの必要性を理解できる。</p> <p>○予習と復習：配付されたプリントを復習する。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

9 回	<p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土①〉</p> <p>○本時の目標 小麦粉粘土の作り方を理解し、小麦粉粘土を使った遊びを考案することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が小麦粉粘土の作り方と留意点を説明する。 ・グループで小麦粉粘土を作り、どのように表現できるか試作してみる。また、幼児がどのような動き、発見をするか予想をしてみる。 <p>○本時の学習成果：小麦粉粘土の作り方、遊び方、留意点を体験的に知ることができる。</p> <p>○予習と復習：次回は小麦粉粘土による造形遊びの指導案と参考作品を作成するので、スムーズに作成できるよう指導案や活動例を調べておく。</p>
10 回	<p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土②〉</p> <p>○本時の目標 グループ内で造形遊びのシュミレーションを繰り返しながら指導案を修正・完成させていく過程を通じ、保育を改善する視点を身に付けることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで小麦粉粘土を使った造形遊びの指導案を考える。 ・グループ内で役割分担を決め、造形遊びのシュミレーションをし、必要があれば指導案をその都度修正していく。 <p>○本時の学習成果：活動のシュミレーションと指導案の修正を繰り返すことで、保育を改善する視点を身につけることができる。</p> <p>○予習と復習：次回模擬保育ができるよう、準備を進めておく。</p>
11 回	<p>〈遊びを広げる 小麦粉粘土③〉</p> <p>○本時の目標 小麦粉粘土を使った模擬保育をグループごとに行い、保育者役としての振り返り、幼児役をしてみたの気づきをまとめる、具体的な改善策を考えることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育に向け各グループで最終調整をする。 ・クラスメイトを幼児役にし、グループごとに小麦粉粘土を用いた模擬保育を行う。(次回以降の授業で使用するので、記録写真をグループごとに撮っておく) ・教員による指導・講評。 ・活動を終えての気づきをワークシートにまとめる。 <p>○本時の学習成果：模擬保育を通して気付いたことをまとめ、また改善が必要な部分については具体的な改善策を考えることができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシートを完成させる。</p>
12 回	<p>〈幼児と表現への理解を深めるために①〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの活動の様子をまとめることを通し、園における評価の考え方を確認する。 ・内容がしっかり伝わる掲示物を作成することができる。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動中での子どもの言葉、発見を記録に残すことの重要性、保護者や地域が子どもの表現活動への理解を深められるような手立てを考えることの大切さを教員が説明する。 ・様々な園で実践されている、子どもの活動の様子を保護者や地域に伝える活動について知る。 ・前回の模擬保育の様子の写真を使って、保護者や地域に活動の様子を伝える掲示物を作成する。 <p>○本時の学習の成果：活動中の子どもの言葉や発見したことを保護者に伝えることで、保護者や地域のみならず、保育者自身が園での教育活動や、園における評価の考え方を確認することができることを理解する。内容がしっかり伝わる掲示物を作成することができる。</p> <p>○予習と復習：掲示物を完成させる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

13 回	<p>〈幼児と表現への理解を深めるために②〉 〈アートでつながる地域と子ども①〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが作成した掲示物を相互鑑賞し、幼児の活動を記録に残し伝達することの大切さを確認する。 ・子どもの活動の様子や成長の喜びを保護者と共有するためのツールについて考えることができる。 <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの掲示物を相互鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめる。 ・子どもの活動や成長の喜びを保護者や地域と共有するためのツールについての具体例を知る。 ・「アートでつながる地域と子ども」というテーマで、造形活動の案を各自で考える。 <p>○本時の学習成果：掲示物の相互鑑賞から幼児の活動を記録に残し伝達することの大切さを確認できる。</p> <p>○予習と復習：「アートでつながる地域と子ども」というテーマでの活動案を考えておく。</p>
14 回	<p>〈アートでつながる地域と子ども②〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>表現活動を「地域とのつながり」をテーマに考えることで、様々な領域や活動空間と関連させながら表現を考えることができるようになる。幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と相談をしても良いが、今回はそれぞれで指導案を作成することを確認する。 ・活動のねらいを熟考する。 ・今回は試作をする必要はないが、子どもの動きや反応などをできるだけ多く予想し、記述していく。 <p>○本時の学習成果：様々な領域、活動空間と関連させながら、幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。</p> <p>○予習と復習：次回までに指導案を完成させる。</p>
15 回	<p>〈「幼児と表現Ⅱ」の指導法 まとめ〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい適正な意見を持つことができる。</p> <p>○本時の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、指導案の発表をする。 ・グループごとに発表会を通して学んだことを発表する。 ・本科目の目標を達成できたか、自己評価を行う。 <p>○本時の学習成果：幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい価値基準と判断力がつき、適正な意見を持つことができる。</p> <p>○予習と復習：ワークシートを完成させる。</p>

平成 31 年 度 教 育 計 画

科目名	幼児と図画工作	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付の方法： E 棟 105 研究室 金曜日 12:20~12:50 e-mail: sekinotomoko@gmail.com							
教育目標と学生の学習成果	<p>教育目標：</p> <p>保育者として必要な、図画工作に関わる表現技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図画工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 2. 図画工作素材・用具の特徴を知り特性を活かして使いこなせる。 3. 芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 <p>学生の学習成果：</p> <p>専門的学習成果として、教育目標に掲げる3項目を習得する。</p> <p>また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。</p>						
教育方法	授業の進め方	<p>(講義・演習・実験・実習・実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ②課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 ⑤予習、復習等について教員が説明する。 					
	予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の制作内容について参考図書などで調べておく。 ・ 時間内で課題が完成しなかった場合は次回までに課題を完成させる。 					
	テキスト	『折り紙遊び』福井晴子／編集（貸与）					
学習評価の方法	<p>以下の5つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を100点とし、おおむね4：2：2：1：1の比重で評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①図画工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ②図画工作素材・用具の特徴を知り目的に応じて使いこなせる。 ③芸術性を意識し創造性を重視した表現ができる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 <p>専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。</p>						
注意事項	特になし。						

授 業 回 数 別 教 育 内 容

1 回	<p>〈オリエンテーション〉 〈形の捉え方① 線で描く〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 ・ダーマツトで伸びやかに線で描く練習をする。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価、受講の注意についての説明。 ・ダーマツトでの描線練習。 <p>○本時の学習成果</p> <p>授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。ダーマツトの線を深く描くことで描線そのものの楽しさ、画面に向かう際の抵抗感を軽減する。</p> <p>○予習と復習</p> <p>次回は制作モチーフ（果物・野菜など）を持参する。</p>
2 回	<p>〈形の捉え方② パステル〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パステルの特徴とその魅力、並びに扱い方について、実際に触ってみながら確認しする。 ・造形要素としての「明暗」「量感」「色」を意識することができる。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持参したモチーフを明暗・量感を意識して描く。 ・持参したモチーフをパステルで色彩豊かに表現する。 ・作品に定着液をスプレーして保護する。 <p>○本時の学習成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ①パステルを使えるようになる。 ②造形要素としての「明暗」「量感」「色」を意識することができる。 <p>○予習と復習</p> <p>次回の課題に向けて「中華料理屋」「和菓子屋」のイメージをかためてくる。</p>
3 回	<p>〈色と形〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>色画用紙を活用した平面構成を通し、色と形によるコミュニケーションについて理解をすることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中華料理屋」「和菓子屋」のイメージを色紙の組み合わせで表現する。そのあと店のイメージをより強く伝える形に切り抜き、画用紙にレイアウトする。作品はグループ内で相互鑑賞する。 <p>○本時の学習成果</p> <p>色と形によるコミュニケーションについて理解をすることができる。</p> <p>○予習と復習</p> <p>課題を完成させる。</p>
4 回	<p>〈特徴をとらえる〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>対象の特徴をとらえ単純化する制作を通し、イラストレーションの役割について理解することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が持参した植物を観察しながらダーマツトで描き、その特徴についてまとめる。 ・ダーマツトで描いた絵を元に、イラストレーションで表現する。 <p>○本時の学習成果</p> <p>対象の特徴を捉え単純化できる。イラストレーションの役割について理解することができる。</p> <p>○予習と復習</p> <p>課題を仕上げる。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

<p>5 回</p>	<p>〈色彩の仕組み〉</p> <p>○本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 ・配色の工夫でイメージを的確に伝えることができることを確認する。 <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色の仕組みとして三原色（赤・青・黄）、三要素（明度・彩度・色相）、色相環について教員が説明する。 ・水彩絵の具を使い、混色をしながら簡単な色相環を描く。 ・補色の効果、同系色の効果について制作を通して確認する。 <p>○本時の学習成果</p> <p>色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。配色の工夫でイメージを的確に伝えることができることを確認する。</p> <p>○予習と復習：課題を完成させる。</p>
<p>6 回</p>	<p>〈スタンプング〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>スタンプングの素材や用具・環境設定について理解し、その特徴や魅力を確認することができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプングの素材や用具、その表現の特徴、幼児と活動する際のポイントを説明する。 ・カットした野菜を利用し、スタンプングを試作する。 ・コットンバッグにスタンプングで装飾を施す。洗濯する素材の場合はアクリル絵の具かファブリックメディウムを利用することを説明する。 <p>○本時の学習成果</p> <p>スタンプング遊びを知り、その環境設定、援助のポイントを習得する。</p> <p>○予習と復習</p> <p>作品を仕上げる。次回の制作用にスチレントレーを入手しておく。</p>
<p>7 回</p>	<p>〈紙版画とスチレン版画〉</p> <p>○本時の目標</p> <p>紙版画とスチレン版画それぞれの特徴を理解し、幼児と活動をする際のポイントを確認する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が版画遊びについて説明をする。 ・紙版画とスチレン版画の制作手順を説明する。スチレントレーの縁は、あとで作品の額縁として活用するため保存しておく。 ・版を作り、紙に刷る。 <p>○本時の学習成果</p> <p>紙版画とスチレン版画それぞれの特徴を理解し、幼児と活動をする際のポイントを確認する。</p> <p>○予習と復習</p> <p>紙コップによる工作例について調べておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

8 回	<p>〈紙コップ工作〉</p> <p>○本時の目標 紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにまとまった数の紙コップを配布。紙コップを加工せずに遊ぶ方法を考え、グループごとに発表する。 ・紙コップをハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 <p>○本時の学習成果 紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○予習と復習：紙皿を活用した工作について調べておく。</p>
9 回	<p>〈紙皿工作〉</p> <p>○本時の目標 紙皿を活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにまとまった数の紙皿を配布。紙皿を加工せずに遊ぶ方法を考える。 ・紙皿をハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 <p>○本時の学習成果 紙皿を活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。</p> <p>○予習と復習 次回制作する車のデザインを考えておくよう告げる。</p>
10 回	<p>〈段ボール工作①〉</p> <p>○本時の目標 段ボール素材の特徴と加工の仕方を理解し、ダンボール工作に必要な用具の扱い方を理解する。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの「切断」「曲げ」「貼り付け」「接合」の方法、用具の扱い方を演習する。 ・車のデザインを考える。 <p>○本時の学習成果：段ボールの基本的な加工方法、用具の安全な使い方を理解する。</p> <p>○予習と復習：段ボールで作る車の構想を練っておく。工作に使えるような廃材を集めておく。</p>
11 回	<p>〈段ボール工作②〉</p> <p>○本時の目標 ダンボールで車を作る活動を通じ、車輪のある玩具の構造を理解することができる。また玩具を作った後の活動の展開について考えることができる。</p> <p>○本時の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールを主素材として車体を作る。 ・車の底にペットボトルのキャップで作った車輪等を取りつけ、実際に転がしてみる。車を走らせて遊ぶための環境構成について考える。 <p>○本時の学習成果 車輪のある玩具の構造を理解することができる。玩具を作った後の活動の展開について考えることができる。</p> <p>○予習と復習 単発で終わらない造形活動の実践例について調べておく。</p>

授 業 回 数 別 教 育 内 容

12 回	<p>〈切り紙〉</p> <p>○本時の目標 5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。</p> <p>○本時の活動 ・プリントと教員の説明を参考にして切り紙で花を表現する。 ・作った花を美しくレイアウトし、貼り絵にする。加筆して仕上げても良い。</p> <p>○本時の学習成果 5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。</p> <p>○予習と宿題 スケッチブックの未完成部分を確認し、次回までに仕上げしておく。</p>
13 回	<p>〈イメージの広がる折り紙〉</p> <p>○本時の目標 折り紙での見立て遊び、伝承折り紙について演習し、幼児期における折り紙遊びの意義について理解する。</p> <p>○本時の活動 ・教員が折り紙遊びの保育における意義についてプリントを配付し説明する。 ・折り紙を使った見立て遊びについて教員が説明する。 ・伝承折り紙を教科書を参考に折る。 (かぶと、せみ、ボート、だましぶね、きょうりゅう、しゅりけん) ・折り紙を画用紙に楽しくレイアウトし、作品に仕上げる。</p> <p>○本時の学習成果 折り紙の保育における意義を知り、発達に応じて援助するポイントを習得する。</p> <p>○予習と復習 作品を完成させる。他の折り紙遊びについても調べておく。</p>
14 回	<p>〈飛び出すカードづくり〉</p> <p>○本時の目標 ・様々な紙に実際に触れながら、それぞれの特徴を知り用途に合った紙を選べるようになる。 ・演習を通し、飛び出すカードの基本構造を理解する。</p> <p>○本時の流れ ・様々な紙を配布、それぞれの特徴や適した用途について教員が説明をする。 ・飛び出すカードの仕組みを説明し、基本の4パターンを制作する。</p> <p>○本時の学習成果 用途に見合った用紙を選ぶことができる。飛び出すカードの基本構造を理解する。</p> <p>○予習と復習 飛び出す誕生日カードのアイデアを練っておく。</p>
15 回	<p>〈誕生日カードづくり〉</p> <p>○本時の目標 飛び出すカードの仕組みを応用し、幼児が喜ぶオリジナル誕生日カードを完成させることができる。</p> <p>○本時の流れ ・カード開閉時の表情の変化をつける、デザインにストーリー性を持たせるなどのデザインの工夫をする。 ・飛び出すカードに仕上げる。</p> <p>○本時の学習成果 飛び出すカードの仕組みを応用し、幼児が喜ぶオリジナル誕生日カードを完成させることができる。</p> <p>○予習と復習 作品を完成させる。以前の課題で未提出のものがあれば提出する。</p>